

地域アクションプラン進捗管理シート

作成日: 平成21年8月26日

地域	仁淀川<土佐市・いの町>		項目	1 地域の基幹品目及び推進品目等の産地の維持・発展		事業主体		JAとさし 高陵青果農協 JA伊野町		実務支援チーム長				
事業概要	農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、主要品目の生産性及び品質の向上を図るとともに、安全・安心を求める消費者ニーズに対応した農産物の生産を推進する。					地域AP 掲載ページ	104	指標	販売額 ニラ (H19 1.2億円) 生姜 (H19 3.4億円)	目標値 (H23)	販売額 ニラ 2.1億 生姜 4.2億	所属	中央西農業振興センター農業改良普及課	
主な内容	集出荷場施設の集約化計画への支援と既存品目見直しによる生産振興を図る。また、品目毎の問題・課題を明確にするとともに篤農家・関係機関と連携した個別課題解決を図る。 【地域の基幹品目及び推進品目】 メロン・キュウリ・ピーマン・ニラ・シシトウ・ショウガ・フンタン・ナシ・小夏・ユズ・ユリ・加工用ワサビ											氏名(連絡先)	塩田英二 (088 852-1281)	

月	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題	
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	・メンバー選定	・取組の実現が可能となるメンバーの選定		・4/22 チーム員選出(JAとさし、JA伊野町、高陵青果農協との打ち合わせ)				
5月	・第1回産地ビジョン検討会議 産地ビジョン検討会の開催について ・第2回産地ビジョン検討会議 品目毎の課題絞り込み	・産地ビジョン行動計画作成の必要性を関係機関で共有する ・まとまりのある園芸産地育成事業にかかわる共通認識を深める ・組織毎、部会毎、生産者毎の実態を把握して、それぞれの課題を明確にする		・検討会の目的及び21園芸年度末(8月)を目途とした、行動計画づくりの承認が得られた。 ・まとまりのある園芸産地育成事業への協力要請に対して了承が得られた。(5/8 JAとさしみのり館、5/12JA伊野町営農部) ・JAとさし西部拠点出荷場建設計画打合せ(5/13,14,21)	・基幹品目、推進品目すべてを検討をしようと呼び掛けているが、まずは事業要望のある品目(文旦、生姜、青ネギ)を優先し検討を進める必要がある。	・JAとさしの集出荷場集約化計画(構想)には青ネギも含まれていることから、地域の基幹品目及び推進品目に「青ネギ」を追加する。		
6月	・第3回産地ビジョン検討会議 品目毎の課題絞り込み 課題整理による振興対策の検討	・組織、部会、生産者の実態把握により、課題を明確にする		・JAとさし西部拠点出荷場建設計画について打合せ(6/3,11,12) ・産地ビジョン検討会(6/3,12いの町、6/9土佐市)	・平成21年度農山村活性化プロジェクト交付金事業の活用について、関係機関(土佐市、JAとさし、中央西農業振興センター、農業農村支援課)が協力・連携し7/24 中四国農政局提出を目指し取り組んだ。			
7月	・第4回産地ビジョン検討会議 産地評価情報の収集 販売担当者との情報交換	・組織毎、部会毎、生産者毎の実態を把握して、それぞれの課題を明確にさせる ・産地に対する消費地の要望を調査する		・JAとさし西部拠点出荷場建設計画打合せ(7/9) ・産地ビジョン検討会(7/10いの町、7/14土佐市)	・平成21年度農山村活性化プロジェクト交付金事業計画書提出(7/24 中四国農政局→7/27 農水省)			
8月	・第5回産地ビジョン検討会議 課題整理による振興方策案の検討 産地ビジョン推進行動計画作成	・品目毎の課題を整理し、課題毎の振興方策をチームで共有化する ・生産組織への提案により生産者意見を汲み上げる		・産地ビジョン検討会(8/4いの町、8/18土佐市) ・JAとさし西部集出荷場整備事業への産業振興推進総合補助金申請に関する打ち合わせ(8/21、25、27)	・平成21年度農山村活性化プロジェクト交付金事業採択の内示(8/10)	・土佐市より平成21年度農山村活性化プロジェクト交付金事業(JAとさし西部集出荷場整備計画)への、産業振興推進総合補助金の活用に向けた計画書(8/28提出)の作成を支援する。		
9月	・第6回産地ビジョン検討会議 課題整理による振興方策案の決定 22年度事業要望の取りまとめ	・事業を活用する振興方策は市・町との合意形成を図る ・組織、部会への振興方策案を提示し、方策案に対する意見を汲み上げる						

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月		・第7回産地ビジョン検討会議 取組に伴う新たな課題の検討 状況確認と行動計画見直し					
11月		・第8回産地ビジョン検討会議 取組に伴う新たな課題の検討 状況確認と行動計画見直し					
12月		・第9回産地ビジョン検討会議 取組に伴う新たな課題の検討 状況確認と行動計画見直し					
1月		・第10回産地ビジョン検討会議 取組に伴う新たな課題の検討 状況確認と行動計画見直し					
2月		・第11回産地ビジョン検討会議 取組に伴う新たな課題の検討 状況確認と行動計画見直し					
3月		・第12回産地ビジョン検討会議 取組に伴う新たな課題の検討 状況確認と行動計画見直し					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	チーム会を立ち上げ、JA及び各市町との計画の共有化ができた。 JAとさしが西部拠点集出荷場を建設する計画があり、関係する品目(土佐文旦、ショウガ、青ネギ)を優先して検討を進めている。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	平成21年度農山村活性化プロジェクト交付金事業計画書を提出(7/24 中四国農政局→7/27 農水省)、8/13に内示が得られた。 これにより、産業振興推進総合補助金活用に向け検討・計画書の作成を支援する。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川(土佐市)	項目	2 土佐文旦の加工			実行支援チーム長		
事業概要	地域の主要品目である土佐文旦の県内市場の飽和化・贈答需要の減少による単価安へ対応するため、加工用原料としての有効活用を図る。				事業主体	JAとさし 土佐文旦加工組合 県内酒造会社		
主な内容	◆土佐文旦の加工の促進		地域AP 掲載ページ	104	指標	加工の方向性の明確化 「ふんぶん」の販売戦略の構築 リキュールの開発と販売開始	目標値 (H23)	-
所属	中央西農業振興センター			氏名(連絡先)	西窪 武久 (852-1281)			

月	計画(P)		実行(D)	評価(O)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	○JAとの協議(事業実施主体としてのJAの意思確認) ○メンバー選定	○事業実施主体の想いを確認 ○方向性を協議できるメンバーの選定(関係機関との調整)	○JAとの協議(4/22) (JAとして文旦加工に取り組み意思を確認) ○メンバーの選定(4/24報告) (メンバーとして、JA・市・農振・企画員・工業振興課を確認)	○事業実施主体の意向確認ができた			
5月	○第1回チーム会の開催(5/14予定) (現状の情報の確認と今後の進め方について協議)	○文旦加工に係る情報が共有できていないので、1回目の会で昨年度までの取り組みと併せ情報を共有化する。 ○また、本会で大筋の方向性について検討し、次回以降検討された内容に従ってチーム会を進めていく。	○第1回チーム会の開催(5/14) ・各チーム員が持っている情報の共有化ができた ・加工の方向性として、2種類の考え方で進めていくことを確認 ①量をさばっていく加工...リキュール等 ②土佐文旦のブランド化のための加工...ムキ実等 ○市内酒造会社との協議(5/21) ・「量をさばっていく加工」としてリキュールができないか協議	○チーム員内での情報の共有化と本年度取り組んでいく課題骨格の検討確認ができた。			
6月			○AP計画打合せ(6/2) ・AP計画に対して「文旦加工組合」の加入を検討 ・搾汁の日程等確認 ○工業試験場にて文旦搾汁実施(6/4) ・約6kgの果汁及び約4kgの果皮を確保(農技センターにて冷凍保存) ○土佐市内酒造会社から、取り組み困難との回答(6/11) ○県内酒造会社との協議(6/17) ・文旦加工品の取り組みを進めていくことを確認 ○土佐文旦加工組合との協議(6/18) ・地域APのなかで一緒に取り組んでいくことを確認 ○第2回チーム会(6/22) ・土佐文旦加工組合と一緒に協議することを決定 ・地域APの一部修正を決定 ・土佐市に加工施設を導入することを今後検討 ・次回、県内酒造会社と協議していく方向で検討(量の確認、搾汁施設導入検討)	○AP計画打合せ ・文旦加工組合の取り組みを聞き取りし、AP計画の目標である「土佐市文旦産地の活性化」と同じ方向であれば、計画を修正し一緒に取り組むことを確認。	○AP計画打合せ(6/2) ・搾汁及び計画変更等を協議 ○工業試験場にて文旦搾汁実施(6/4) ・加工品試験作用として確保 ○第2回チーム会(6/22) ・事業主体に土佐文旦加工組合を追加、またそれに応じた指標を追加		
7月	○第2回チーム会の開催 (具体の加工方向性検討)		○県内量販店との協議(7/23) ・カットフルーツ等の可能性等について確認 ○臨時(2回目)チーム会の開催(7/27) ・県内酒造会社に搾汁設備を導入することで一致(大量消費加工用)＝産地としては原料提供の考え	○大量消費向け加工品(お酒)については原料提供の考えで進んでいくことで一致。 ○県内酒造会社に搾汁設備が整備されれば文旦産地にとって安定的な所得確保に繋がる。	○臨時チーム会の開催(7/27) ・大量消費分の加工品つくりのため県内酒造会社において搾汁設備を導入することを決定		
8月			○総合補助金申請に向けた取り組み ・搾汁設備整備予算措置(土佐市:9月議会補正提案予定) ○第3回チーム会の開催(8/19) ・事業実施主体に県内酒造会社が入ることを決定、地域AP事業主体及び指標を修正。 ・搾汁設備の導入及び具体の取引等について検討 ○JA組合長協議(8/20) ・JAとさしの取り組み確認(原料提供) ○JA常務部会協議(8/21) ・産地の取り組み確認(原料提供) ○総合補助金申請(8月末)	○第3回チーム会において8月末締め切りの総合補助金に申請(搾汁設備)することが合意された。また、文旦加工組合が「地域産品商談会」に参加することとなる。 ○原料提供していくことについては、連携主体であるJA及び生産者と協議し、産地として取り組むことを確認済み。	○第3回チーム会(8/19) ・事業主体に県内酒造会社を追加、またそれに応じた指標を追加 ○8月末＝総合補助金申請(搾汁設備)		
9月	○第3回チーム会の開催 (具体方向性の検討)		○第4回チーム会の開催(9/28) ・土佐市アドバイザーとの協議。事業進捗状況確認。				

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月							
11月	第4回チーム会の開催 (具体方向性の検討)						
12月							
1月	○第5回チーム会の開催 (具体方向性のまとめ)						
2月							
3月	○第6回チーム会の開催 (具体方向性のまとめ)	○チーム会で検討した具体的な方向性に従い次年度の取り組みに繋げていく。					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	・チーム会での情報及び推進方向の共有化ができた。 ・原料提供としての取り組みについて具体的な活動ができた。(県内酒造会社で試作品づくりの動きにつながっている。)	I 「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II 「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	◎	・県内酒造会社との取り引きをおこなうことが決定した。(100円/kg) ・チーム会において総合補助金を活用し搾汁設備を整備することが合意された。(県内酒造会社へ) ・付加価値を高める加工品の取り組みスケジュールを確認した。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域アクションプラン進捗管理シート

作成日: 平成21年8月26日

地域	仁淀川<いの町>		項目	3. 地域の特産品開発(本川じゃがいも)		
事業概要	いの町本川地区で栽培されている「本川じゃがいも」の品質の統一等を行い、特産品として販売を拡大することにより、農家所得の向上につなげる。			事業主体	いの町	
主な内容	「本川じゃがいも」の生産・販売の拡大、新商品の開発		地域AP掲載ページ	指標	目標値(H23)	

実行支援チーム長	
所属	地域づくり支援課
氏名(連絡先)	山本光明 (090-7788-5986)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月							
5月	・「本川じゃがいも生産販売検討会」(商品規格・生産量拡大)開催に向けた協議(町・関係者)	・昨年実施の試食会の結果確認と今後の取り組み方針を確認(町・関係者)					
6月	・耕作放棄地全体調査(町実施)結果の確認と現地調査	・生産拡大が可能か確認	・「本川じゃがいも生産販売検討会」(商品規格・生産量拡大)開催に向けた協議を6月3日に実施(アクションプラン実行支援チーム会)。 ・6月26日に耕作放棄地調査を、実行支援チームで実施。	・比較的簡単に農地に復元できる放棄地を確認。			
7月	・市場調査 ①食品バイヤーへの商品PRやニーズ聴き取り ②本川じゃがいも購入者へのアンケート調査(レストラン・直売所・旅館等)	・市場評価の検証	・新たに栽培農家にならないか声掛けし、2名が栽培に向けて検討。				
8月			・市場調査 ①8月2日開催の「本川じゃがいも収穫祭」を食品バイヤーに紹介し、商品PRと試食結果聞き取り及び地産外消について打ち合わせ。 ②購入者アンケート調査を実施。	①バイヤーの評価は良好で、小玉を20kgサンプル出荷。 ②アンケート結果は良好で、料理・加工品の意見有り。			
9月	・「本川じゃがいも生産販売検討会」の開催(第1回)	・市場調査及び生産量拡大等検討結果に基づく協議・特産品として生産販売に取り組むか確認					

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	「本川じゃがいも生産販売検討会」の開催(第2回)		新規栽培農家の開拓、栽培方法等の指導について検討				
11月	新規栽培農家への栽培方法研修会						
12月	「本川じゃがいも生産販売検討会」の開催(第3回)		来年度作付け計画等検討				
1月							
2月	作付け						
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	本川じゃがいも生産販売検討会開催に向けた打ち合わせを行い、生産者へのアンケート調査や耕作放棄地調査の現地確認の実施について協議した。今後は、実際に商品等を見てもらうために、生産現場にバイヤーを招くことを計画しており、その具体的な日程調整等について検討する。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	市場調査を本川じゃがいも収穫祭で、バイヤーと購入者を対象に実施し、商品の評価やアンケート調査を計画どおり実施。今後は、生産量拡大に向けて、本川地区内での新規栽培者把握のため、アンケート調査の実施と新たな販路(地産外消)開拓に向けて、食品バイヤーと協議する。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川(いの町)		項目	4 集落営農の推進		事業主体		上東地区営農組合	
事業概要	集落の住民が協力し、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行うことで、将来にわたり活き活きと生活できる地域づくりを目指す。(対象地区:いの町吾北地区)					地域AP掲載ページ	105	指標	①地域の協業の取り組み:0.9ha ②延べ受託面積:4ha ③新部門設立:1部門
主な内容	◆こうち型集落営農モデル組織の育成 ○組織活動への支援 ○農作業受託グループの活動支援 ○集落営農組織内の新たな部門立ち上げ支援					目標値(H23)	①=2ha ②=8ha ③=2部門		

実行支援チーム長	
所属	中央西農業振興センター
氏名(連絡先)	西窪 武久 (852-1281)

月	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題	
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	○平成21年度上東地区営農組合総会開催支援 ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会) ○上東地区営農組合役員会の開催支援(受託調整・事業進捗状況の確認及び推進) ○中山間地域集落営農等支援事業ヒアリング	○平成21年度の活動がスムーズに行われるよう関係機関と連携し側面から支援。 ○毎月、町、JA、農業公社との定例会を開催し、モデル地区の進行方向等について確認し進めていく。 ○事業実施にあたっては、組合の意向を十分反映させた内容になるよう、町・農振は側面から支援する。 ○竣工希望時期が8月下旬であるため、早めの着工となるよう調整が必要。	○平成21年度上東地区営農組合総会支援(4/10) ○こうち型集落営農推進協議会(チーム会)の開催(4/30) ・特に、事業推進について検討 ○上東地区営農組合役員会及び受託部会開催(4/30) ・事業推進、本年度活動確認、受託調整、視察研修等 ○中山間地域集落営農等支援事業ヒアリング(4/22) ・倉庫・乾燥機・刈り機・計量米選機導入協議 ○新規園芸品目試作(5/1) ・ニラ5aを定植完了 ○上東地区営農組合役員会及び受託部会開催(5/14) ・事業推進、受託最終調整、視察研修等 ○受託グループ(ドリームサポート上東)による初めての受託作業が開始される(5/19) ○事業内示(5/22) ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会)(5/29) ・事業実施及び集落営農の取り組み協議 ○酒米田植え旅館業組合との交流(5/29) ・旅館業組合4名が参加、2a分を手植え ○事業交付決定(6/3) ○上東地区営農組合役員会及び受託部会開催(6/11) ・ハード事業の業者決定、視察場所等の調整、秋作業PR方法等について ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会)(6/29) ・視察研修及び事業導入等について協議	○総会にて本年度取り組む内容が容認された。(4/10) ○新規作物であるニラについては、収穫調整を地域の労力を活用することを考えており、将来の協業化に繋げていく。 ○本年度導入予定事業については、概ね予定通り進行 ○水稲田植え受託は、約1.4haとなる見込み。 ○旅館業組合との交流については、今後拡大させる方向で検討していく。 ○水稲田植え作業は予定どおり1.4haを受託。 ○視察研修場所は島根・鳥取(規模及び取り組みが上等に似ている地区)に決定。				
5月	○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会) ○上東地区営農組合役員会の開催支援(事業の進捗状況確認及び推進・新規部門立ち上げ協議) ○新規園芸品目試作(ニラ)	○新規部門の設立に向け具体的に、どの部門を立ち上げていくのかを絞り込む必要がある。(加工・直販・ユズ受託等) ○ニラについては、集落全体の取り組みに広がるよう工夫が必要。(集落の高齢者の労力活用等)						
6月	○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会)(視察研修・新たな部門について) ○上東地区営農組合役員会の開催支援(視察研修・新たな部門設立・秋の農作業受託調整) ○新部門協議会の開催支援	○新たな部門設立については、係わるメンバーに集まってもらい協議を始めていくことが必要。						
7月	○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会)(視察研修・新たな部門について) ○上東地区営農組合役員会の開催支援(視察研修・新たな部門設立・秋の農作業受託調整) ○先進地視察研修 ○新部門協議会の開催支援	○できるだけ多くの方が参加できるよう、視察場所・時期を検討する必要がある。		○上東地区営農組合役員会及び受託部会開催(7/3) ・先進地視察の最終確認、協業の取り組み、事業の進捗状況等について確認 ○新規園芸品目(ニラ)の収穫始め(7/16~) ・調整作業に不慣れであり、やや遅れ気味 ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会)(7/24) ・視察研修及び協業の取り組み等について協議 ○先進地視察研修(7/25~26) ・島根県、鳥取県を視察	○新規園芸品目としてニラの収穫が始まった。協業お取組みを含め拡大していく必要がある。 ○先進地視察は集落から15名の参加があり、加工等の取り組みは今後の組織運営の参考となった。			
8月	○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会) ○上東地区営農組合役員会の開催支援 ○中山間地域集落営農等支援事業竣工・機械導入 ○新部門協議会の開催支援	○水稲乾燥調整のことも含め、8月下旬までに竣工するよう調整。		○上東地区営農組合役員会及び受託部会開催(8/3) ・事業の執行状況確認、作業受託(秋作業)集計、協業の取り組み検討等 ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会)(8/28) ・事業の進捗及び臨時総会等について協議	○倉庫については9月上旬までには竣工の見込み。 ○秋作業の受託は現在約1haの稲刈りと、乾燥10回、機械レンタル68袋の要望を集計。 ○ニラ協業のハウス建築を検討。一園芸部門として立ち上げていく方向。→9月臨時総会で規約修正予定。			
9月	○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会) ○上東地区営農組合役員会の開催支援 ○新部門協議会の開催支援			○上東地区営農組合役員会及び受託部会開催(9/3予定) ・臨時総会打ち合わせ、秋作業集計等 ○上東地区営農組合臨時総会(9/12予定) ・園芸部門の立ち上げ予定				

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会) ○上東地区営農組合役員会の開催支援 ○新規園芸品目定植(加工用ワサビ:推進2年目) ○新部門協議会の開催支援 	○加工用ワサビの面積拡大に含めて、協業の取り組みに繋がるよう工夫する必要がある。					
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会) ○上東地区営農組合役員会の開催支援 ○新部門協議会の開催支援 						
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会) ○上東地区営農組合役員会の開催支援 ○新部門協議会の開催支援 						
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会) ○上東地区営農組合役員会の開催支援 ○新部門設立 						
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会) ○上東地区営農組合役員会の開催支援 ○新部門の活動支援 						
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○こうち型集落営農推進協議会の開催(チーム会) ○上東地区営農組合役員会の開催支援 ○新部門の活動支援 	○21年度の取り組み確認と22年度に向けた課題等の明確化を図る必要がある。					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	・チーム会での情報及び推進方向の共有化ができた。 ・事業導入や新規園芸品目の栽培試作等、集落営農組織の役員会及び関係機関によるチーム会で進捗管理しながら計画通り進めることができている。 ・また、高知市旅館業組合との交流活動を行うなど、当初計画以上の実績も出てきている。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	・概ね予定通りに進捗している。 ・協業の取り組みとして「園芸部門」の立ち上げが予定されている。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川(いの町)	項目	5 新高梨の加工					実行支援チーム長		
事業概要	生理障害等により廃棄処分されている新高梨を有効利用し、商品開発等を行うことで農業者の所得の向上を図る。			事業主体	JA伊野町				所属	中央西農業振興センター
主な内容	◆新高梨の新商品の開発と販売の促進	地域AP掲載ページ	106	指標	新高梨シャーベットの販売(約4,000個) 酒類加工適正の結論	目標値(H23)	加工品2品目の販売	氏名(連絡先)	西窪 武久 (852-1281)	

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	○JAとの協議(事業実施主体としてのJAの意思確認) ○メンバー選定	○事業実施主体の意思確認 ○方向性を協議できるメンバーの選定(関係機関との調整)	○JAとの協議(4/8) ○メンバーの選定(4/24報告)(メンバーとして、JA・町・農振・企画員・工業振興課を確認)	○事業実施主体の意向確認ができた			
5月	○酒造会社との協議(5/13)(加工適正の評価及び今後の取り組み) ○第1回チーム会の開催(酒造会社加工適正の判断後)(加工用原料としての量の確認(生産現場確認))	○酒造会社で加工適正有りと判断が出た場合、 ①原料としての取引単価 ②集荷体制及び原料の確保等の課題を解決していく必要がある。また、適正がなかった場合、他の加工を検討していく必要がある。	○県内酒造会社の判断として「加工適正有り」を確認(5/13) ○原料単価として農家へ100円/kg+JA手数料等として、酒造会社としてどれだけの量があるか確認中→5月中旬に酒造会社より返答予定(量が多い場合は近隣産地に波及させていく予定) ○第1回チーム会の開催(5/29) ・スケジュール及び今後の取り組み確認(酒造会社の回答待ち) ○果樹部役員会の開催(5/26) ・加工品の取り組み状況の確認				
6月	○梨生産者との協議(取り組みの情報共有)	○取り組みの進捗状況について情報を共有しておく必要がある。	○県内酒造会社からの回答(6/9) ・産地への支払金=100円/kg(JA手数料は2%程度) ・配送経費は会社持ち ・平成21年度は5tの取引から始める・・との連絡有り。 ○いの町内酒造会社と事業実施主体との話し合いで加工に取り組んでいく意識があることを確認。	○県内酒造会社との協議により5t=産地に50万円の収益とすることができた。(収益の純増)			
7月	○第2回チーム会の開催(酒造会社適正であった場合は、取引単価及び集荷方法を具体的に検討、なかった場合他の加工適正を模索)(シャーベット1次加工の役割分担(コンポート作成))	○集荷方法については、JA以外の体制も含めて検討していく必要がある。 ○コンポート作成はJA女性部等との調整が必要。	○いの町内酒造会社との協議(7/3) ・本年度2tで取引引きをしていくことを決定。(搾汁の課題は残るが、100円/kg(産地に20万円)で取引引きしていく。)	○いの町内酒造会社との協議により2t=産地に20万円の収益とすることができた。(収益の純増)			
8月							
9月	○第3回チーム会の開催(シャーベット及び酒類の加工販売等について)	○10月の新高梨収穫前に、原料の集荷方法及びシャーベットの販売計画を明確にしておく。	○第2回チーム会の開催 ・シャーベットの取り組みと酒造会社への供給方法を検討				

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月		○加工販売の実践支援 (シャベット及び酒類) (イベント等でのアンケート等の実施)					
11月		○第4回チーム会の開催 (実践した加工品の評価確認:アンケート、加工会社聞き取り等)	○販売及び加工品評価の確認				
12月							
1月		○第5回チーム会の開催 (本年度の取り組み評価)					
2月							
3月		○第6回チーム会の開催 (次年度に向けた取り組み検討)	○チーム会で検討した具体的な方向性に従い次年度の取り組みに繋げていく。				

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	・チーム会での情報及び推進方向の共有化ができた。 ・県内酒造会社との協議により本年度は5t 100円/kg=50万円で取引を始めていくことが決定となった。(今後、取引量を増やしていく努力が必要) ・昨年度取り組みが難しいとの回答であった、いの町内酒造会社からも、加工品づくりを検討していきたいとの話があり、今後具体を検討していく予定。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	・いの町内酒造会社との協議により、新たに2t 100円/kg=20万円で取り組むことを決定した。 ・今後、シャベット作りと酒造会社への具体の供給方法を検討する必要がある。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<いの町>		項目	6. 本川キジの販路確保と新たな商品開発			実行支援チーム長		
事業概要	いの町本川地区の特産品として、「本川キジ」の販路の拡大や新商品の開発に取り組み、中山間地域における新たな産業として定着させる。				事業主体	本川きじ生産組合		所属	中央家畜保健衛生所
主な内容	「本川キジ」の生産・販売の安定化	地域AP掲載ページ	指標	本川キジの生産羽数(H20 1,000羽)	目標値(H23)	4,600羽		氏名(連絡先)	吉田史孝 (088-852-7730)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月	<ul style="list-style-type: none"> 第4回本川きじ生産に関する打ち合わせ会(飼育、販路確保等協議・参加:組合、庭先農家、関係機関) 4月30日入卵 産業振興推進総合支援事業申請 		<ul style="list-style-type: none"> 第4回本川きじ生産に関する打ち合わせ会(飼育マニュアル作成、平成21年度飼育計画等) 4月30日入卵 産業振興推進総合支援事業申請(4月28日) 	<ul style="list-style-type: none"> きじ組合・庭先農家・関係機関が飼育マニュアル作成、平成21年度飼育計画等協議し、きじの飼育から販売に向けた具体的な取り組みとなっている。 いの町が産業振興推進総合支援事業申請済み。 			
5月	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントでのPR(あめご釣り大会できじ汁PR販売) 5月下旬解卵 産業振興推進総合支援事業審査会 		<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントでのPR(あめご釣り大会できじ汁PR販売5月5日) 5月下旬解卵 産業振興推進総合支援事業審査会(5月26日) 	<ul style="list-style-type: none"> きじ組合がイベントに参加し、きじ汁を来訪客に販売しPR活動を実施し、これからの商品販売に向けた取り組みとなっている。 			
6月	<ul style="list-style-type: none"> 第5回本川きじ生産に関する打ち合わせ会(飼育、販路確保等協議・参加:組合、庭先農家、関係機関) 産業振興推進アドバイザー事業による市場調査 	<ul style="list-style-type: none"> 庭先農家の飼育施設整備状況確認と指導 本川きじ飼養マニュアルの整備(第1版) 本年度の実施計画検討:飼育、新たな販路確保(商談会への参加)等検討 経営管理(収支、労働時間等の帳簿)指導 	<ul style="list-style-type: none"> 第5回本川きじ生産に関する打ち合わせ会(飼育状況、解体加工処理マニュアル作成、販路確保等協議・参加:組合、庭先農家、関係機関)を6月10日開催。 				
7月	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントでのPR(氷室まつりできじ汁PR販売) 7月中旬 庭先農家へひな配布 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客ニーズの調査(アンケート調査等) 	<ul style="list-style-type: none"> 7月19日氷室まつりで、「きじ飯」をPR販売。 	<ul style="list-style-type: none"> お客さんから高評価を。 			
8月	<ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業(給水施設、PRのぼり等整備) 第6回本川きじ生産に関する打ち合わせ会(飼育、販路確保等協議・参加:組合、庭先農家、関係機関) 		<ul style="list-style-type: none"> 8月2日本川収穫祭で、「きじ飯」、「きじうどん」、「きじそば」をPR販売。 8月3日高遠道路SAでの販売に向けて商談。 8月15日源流まつりで、「きじ飯」をPR販売。 第6回本川きじ生産に関する打ち合わせ会を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 商談先から評価を得ており、販路確保に努める。 お客さんから高評価。 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントでのPR(四国のでっぺん酸欠マラソンきじ汁PR販売) 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客ニーズの調査(アンケート調査等) 	<ul style="list-style-type: none"> 四国のでっぺん酸欠マラソンで「きじ汁」をPR販売。 				

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		・第7回本川きじ生産に関する打ち合わせ会(飼育、販路確保等協議・参加:組合、産先農家、関係機関) ・商品サンプル出荷(百貨店・ホテル・スーパー等4箇所)					
11月		・加工処理及び商品出荷					
12月		・第8回本川きじ生産に関する打ち合わせ会(飼育、販路確保等協議・参加:組合、産先農家、関係機関)					
1月							
2月		・第9回本川きじ生産に関する打ち合わせ会(飼育、販路確保等協議・参加:組合、産先農家、関係機関)	・顧客ニーズの調査の検証と結果に基づく販売戦略検討 ・来年度の飼育計画検討				
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	総合補助金が5月の審査会で採択される。生産者や関係機関による定例会(2カ月に1回)を実施し、おおむね計画どおり進捗させた。今後はアドバイザーを登用し、パッケージデザインの検討や顧客ニーズの調査に取り組む。	I 「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II 「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	△	市場調査に関するアドバイザー事業は未達成であるが、今後パッケージデザインと合わせて顧客ニーズ調査も実施する。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川(いの町)	項目	7 給食への食材提供(安定的な出荷先の確保)				実行支援チーム長		
事業概要	学校給食への地域食材の供給量を拡大することにより、地産地消や安全・安心な食材の提供を推進すると共に、農業者の所得の向上に繋げる。				事業主体	JA伊野町			
主な内容	◆学校給食へ地元食材を提供するシステムの構築			地域AP 掲載ページ	106	指標	食材供給体制の構築 学校での出前授業の開催(2回)	目標値 (H23)	学校給食への 食材提供
所属		中央西農業振興センター							
氏名(連絡先)		西窪 武久 (852-1281)							

月	内容	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題		
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等			
4月	○JAとの協議(事業実施主体としてのJAの意思確認) ○メンバー選定	○事業実施主体の意思確認 ○方向性を協議できるメンバーの選定(関係機関との調整)	○JAとの協議(4/8) ○メンバーの選定(4/24報告)(メンバーとして、JA・町・企画員・農振を確認)	○事業実施主体の意向確認ができた					
5月	○第1回チーム会の開催(本年度の取り組み確認)(食材の供給体制及び供給品目について検討、本年度の出前授業の実施場所内容について検討)	○第1回目の会で課題を明確にしその解決方向を探っていく。(特に、供給体制等) ○食材提供の品目については、生産者の栽培品目の把握が必要。(20年度一定調査済み) ○出前授業については、学校関係との連携が必要	○第1回チーム会の開催(5/29) ・スケジュール及び今後の取り組み協議 ・出前授業品目協議	○第1回チーム会 ・出前授業として「梨」、「ショウガ」で学校教育課に投げ込むこととなった。 ・スケジュール及び取り組みべき項目を確認(JAの体制・取り組み品目等)					
6月			○学校給食への取り組み方向の検討(6.23) ・JAの取り組み内容の再確認と今後の方向検討 一現在の取り組みの中で、可能な限り地元農産物を取り入れていく方向とスケジュールを確認	○JAの体制から今以上の取り組みが困難なため、できるだけ地元食材の利用率を高める工夫をしていくこととする。					
7月	○第2回チーム会の開催(食材の供給体制及び供給品目について検討)(出前授業の取り組み品目及び具体案の検討)	○JAで取り組める品目から進めていく必要がある。 ○地域にある品目を出前授業に使う必要がある。	○農業関係連絡会での協議(7/10) ・出前授業として、「梨」、「ショウガ」の検討。 ○学校給食の実態調査(7/16) ・地元産の割合を集計						
8月			○農業関係連絡会での協議(8/4) ・「梨」=伊野南小学校「ショウガ」=枝川小学校と連携し出前授業を行うことを確認。○学校給食の実態調査(8/13) ・地元産の割合を集計	○出前授業については、小学校と連携し具体的内容や時期について協議していく必要がある。					
9月	○第3回チーム会の開催(取り組み状況の確認及び進行管理)		○第2回チーム会の開催 ・取り組み状況の確認及び進行管理						

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	○出前授業の実施(農家・JA・農振が先生) (ナシを教材に実施)	○学校周辺にある品目を使った授業にしていける必要がある。					
11月	○出前授業の実施(農家・JA・農振が先生) (白目芋orショウガを教材に実施) ○第4回チーム会の開催 (実践した出前授業の評価確認:アンケート等) (食材の供給体制及び供給品目について検討)	○学校周辺にある品目を使った授業にしていける必要がある。					
12月							
1月	○第5回チーム会の開催 (本年度の取り組み評価)						
2月							
3月	○第6回チーム会の開催 (次年度に向けた取り組み検討)	○チーム会で検討した具体的な方向性に従い次年度の取り組みに繋げていく。					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	・チーム会での情報及び推進方向の共有化ができた。 ・学校教育課との連携により、なしの出前授業を実施することが決定した。	I「進捗(達成)度」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	・学校教育課との連携によりショウガの出前授業を実施することが決定した。 ・JAとの連携により、地域食材の地元割合の調査をすることができた。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川流域(仁淀川町、越知町、佐川町、日高村、いの町)		項目	8 仁淀川流域茶のブランド化を主体とした茶の振興			実行支援チーム長			
事業概要	良質茶の主産地である仁淀川流域の共通ブランドとして、「仁淀川流域茶」(仕上げ茶)の販売を拡大するとともに、効率的な生産体制の整備や新たな加工品の開発と販路の開拓により、茶生産農家の所得の向上を図る。				事業主体	・JAコスモス ・管内の茶生産組織		所属	中央西農業振興センター高吾農業改良普及所	
主な内容	○仁淀川流域で統一したブランド(仁淀川流域茶)の確立 ○生産の仕組みづくり(受委託、ゆい等) ○加工品の開発		地域AP掲載ページ	106	指標	仁淀川流域茶(仕上げ茶)の販売量(H19 茶全体の7%)	目標値(H23)	茶全体の15%	氏名(連絡先)	岡崎 公秀 0889-22-1175

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月	○仁淀川流域茶産地振興協議会合同部会の開催 ・土佐茶販売対策協議会との今後の進め方について ・Uターン就農者を対象とした栽培技術勉強会の打ち合わせ	・作成する販促資材の決定 ・土佐茶販売対策協議会との役割調整 ・茶業試験場への協力体制(勉強会)の要請と打ち合わせ		・産業振興推進総合支援事業を活用した販売促進活動費の導入決定。 ・販促資材が決定(ポスター、パンフレット、のぼり等)した。 ・ポスター、パンフレットについては去年作成したものに写真や文字の入れ替えを行うこととなった。 ・土佐茶販売拡大協議会の取り組みについて関係機関で確認を行った。次回、役割分担できる部分と支援できる部分を協議する。 ・勉強会について茶業試験場と打ち合わせの結果、協力が得られることとなった。7月までに、具体的な進め方について打ち合わせを行う。	・少ない予算の中で、より良い方向で取り組んでいくこととなった。 ・茶業試験場と普及所の役割分担を明確にする。		
5月	○販促資材用写真の撮影 ○関係機関との実施計画について打ち合わせ	・各生産者との調整 ・関係機関との役割分担の明確化		・生産者自身で撮影してもらい、販促資材用の写真を用意してもらった。 ・企画運営に関して関係機関との役割分担を引き続き検討することとなった。 ・知事に県内の茶産地の代表者が、新茶を持ち寄り試飲会を開催。仁淀川茶産地振興協議会からは生産者代表4名、JA1名が参加し、知事から高い評価を得た。また農業振興部長との意見交換会を開催。部長に茶の現状及び今後の取り組みについて説明した。	・知事への新茶試飲会を契機に、流域茶の販売拡大について協議会でより具体的な取り組みを協議する必要がある。		
6月	○仁淀川流域茶産地振興協議会企画運営部会の開催 ○業者との販促資材の打ち合わせ ○既販売仕上げ茶の製造条件調査(茶業試験場) ○荒茶の外観品質及び官能評価(茶業試験場) ○茶園実態調査および栽培技術勉強会に向けての事前打ち合わせ ●荒茶加工施設の更新検討	・今後の取り組みについて調整・検討 ・事務局、関係機関でのポスター、パンフレットなどの事前手直し ・仕上げ茶メーカー、商品の選定と情報提供依頼 ・データの普遍性向上のためデータの数値化の検討 ・部長への趣旨の説明と予定について		・今年度の具体的な取り組み内容が決定した。 ・実態調査および勉強会について部長に了解を得、7月から開始することとなった。 ・強い農業者づくり事業を活用した荒茶加工施設の更新を検討	・今年度導入するハード事業に向け、協議会で具体的な内容について検討していく。		
7月	○仁淀川流域茶産地振興協議会販促部会販促資材の打ち合わせ ○第2回仁淀川流域茶試飲会 ○茶園管理作業の実態調査 ○栽培技術勉強会	・ポスターなどの販促資材の最終調整 ・茶業試験場との調整、試飲用流域茶の調達 ・栽培レベルの向上		・第2回仁淀川流域茶の新茶試飲会を開催。仁淀川流域以外の県内外茶も含め、商品茶23種類で試飲が行われた。流域茶の特徴や個性を確認し、品質向上および販売促進に活用していく。 ・生産者や会長と検討した結果、秋整枝が最重要項目になるため、秋に重点的に講習会を開催することになった。	・今後の茶の品質管理や表示について、生産者から意見が出始めるなど、流域ぐるみの活動として意識が向上した。		
8月	○販促資材の完成 ○アドバイザーによる消費拡大勉強会 ○茶園管理作業の実態調査 ○仕上げ茶製造条件(ブレンド割合、火入れ温度・時間など)の検討開始(以後継続)(茶業試験場)	・関係機関への配布 ・茶業試験場、高知女子大教授との調整 ・生産者への意識啓発 ・既存メーカーの協力		・去年作成した販促資材を活用し、サニーアクシスの店において生産者6名が消費者への仁淀川流域茶のPRと試飲販売を行った。 ・関係機関と連携しながら、聞き取り調査を行った。 ・今年度導入するハード事業に向け、生産者から聞き取り調査を行った結果を元に、協議会で具体的に検討。	・流域ぐるみでの販促イベントへの参加は今回が初めてであったが、生産者の販促への意欲が向上してきた。		
9月	○仁淀川流域茶常設店設置のための基礎調査 ○他産地の取り組み状況視察 ○茶園管理作業の実態調査 ○新たな加工茶(ほうじ茶、紅茶など)の検討会	・生産者への意識啓発 ・茶業試験場との連携・調整		・8月の販促イベントでの反省会を行い、次回のイベント(9月9日県庁生協での試飲・販売)に活かせるよう検討した。またポスター、パンフについて販促部会で検討し、最終調整を行った。 ・商品茶を販売するに当たって茶業試験場の協力を得て、品質管理、保管に関する注意点や商品茶の表示ルールについて勉強会を行った。	・仁淀川流域茶の知名度アップや商品茶の販売拡大のためのイベント参加を今後も支援していくことが必要。		

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	○茶に関する知識およびおいしい茶の淹れ方講習会 ○栽培技術勉強会 ○茶園管理作業の問題点整理 ・荒茶の味覚成分等分析開始(茶業試験場) ・既販売仕上げ茶の味覚成分等分析開始(茶業試験場)	・茶業試験場との連携・調整 ・部会長、茶業試験場との打ち合わせ ・迅速な資料作成 ・データの普遍性向上のため官能だけでなくデータの数値化の検討					
11月	○茶業試験場まつり、近畿県人会での販促活動 ○仁淀川流域茶産地振興協議会企画運営部会の開催 ○茶園管理に関する対策検討会	・環境農業推進課、茶業試験場との調整 販売用茶の調達 ・専用HPの検討 ・関係機関、生産者からの積極的な意見の引き出し					
12月	○仁淀川流域茶産地振興協議会合同部会の開催 ○茶園管理に関する対策検討会 ○仕上げ茶試作品の製造及び味覚成分等分析(以後継続)(茶業試験場)	・加工品製造ラインの検討 ・関係機関、生産者からの積極的な意見の引き出し ・再現性のある試作品の製造とその評価 味・香り・価格などコンセプトの検討					
1月	○茶園維持に向けた具体案の作成	・関係機関、部会長との検討					
2月	○仁淀川流域茶産地振興協議会合同部会の開催 ○栽培技術勉強会	・次年度の実施計画の検討 積極的な意見の引き出し ・最終栽培レベルの確認					
3月	○仁淀川流域茶産地振興協議会合同部会の開催 年間成果の取りまとめ	・次年度の実施計画の確認 関係機関、生産者の意識統一					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	産業振興推進総合支援事業が決定され、振興協議会でPR内容等を決定。茶業試験場と連携した新たな製品を検討。国の補助金を活用した製茶施設の改善に向け計画を検討中。引き続き計画の実現に向けて取り組みを推進する。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	仁淀川流域茶の品質向上に向けた試飲会や販促活動を行った。産業振興推進総合支援事業費を活用し、イベント等で活用できるようポスター、パンフ等の販促資材の作成を始める。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川流域 <越知町、佐川町、日高村、仁淀川町>			項目	9 薬用作物の産地拡大による所得の向上		
事業概要	大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコやサンショウなどの薬用作物の産地を大手製薬会社の漢方薬の需要増に対応できるよう作付を拡大し育成することにより、所得の向上と就労の場の確保を図る。			事業主体	ヒューマンライフ土佐 ・高知県(高吾農業改良普及所)		
主な内容	薬用作物の産地の育成	地域AP 掲載ページ	108	指標	薬用作物の作付面積の増	目標値 (H23)	ミシマサイコ 55ha サンショウ 40ha

実行支援チーム長	
所属	中央西農業振興センター高吾農業改良普及所
氏名(連絡先)	岡崎 公秀 0889-22-1175

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月	○チーム会の開催 ・チーム会メンバーの選定 ・ミシマサイコの本コブセンチュウ実証圃設置	管内の現状の把握 ・本コブセンチュウ対策	○チーム会の開催 ・チーム会メンバーの選定 越知町、佐川町、日高村、ヒューマンライフ土佐、高吾農業改良普及所でチームを編成 ・ミシマサイコの本コブセンチュウ実証圃設置 日高村にて水田での栽培可能か実証(約10a)	○日高村での実証圃の一部に、周囲の水田から水が入ったことから、今後の生育に影響がでる可能性がある。	/	/	/
5月	○関係機関チーム会の開催 ・前年度実績の確認 ・本年度栽培状況の把握と課題の確認 ・栽培圃場の現地指導 ・本年度の実証圃の設置について *耕作放棄地等の調査:薬用作物作付用所有者の貸付意向調査:通年(事業主体ヒューマンライフ土佐)	関係機関メンバーの意識統一 ・課題の把握 ・各町村 農業委員会の協力	○関係機関チーム会の開催(5月20日) ・前年度実績の確認 ・本年度栽培状況の把握と課題の確認 ・栽培圃場の現地指導 ・本年度の実証圃の設置について *耕作放棄地等の調査:薬用作物作付用所有者の貸付意向調査:通年(事業主体ヒューマンライフ土佐)	・生産者及び生産量拡大に向けてチーム員、生産者を交えて先進地視察を行うこととなった。			
6月	○チーム会の開催 ・ミシマサイコ栽培指導 ・支援体制の協議 ・新たな雇用の取り組み ○ヒューマンライフ土佐総会 ・前年度実績 ・本年度の取り組み計画 ・ダイダイ収穫に向けた協議	新規栽培者への周知 ・長期的な栽培計画の協議					
7月	○関係機関チーム会の開催 ・サンショウ収穫に向けた協議 ・サンショウの収穫後の防除指導	品質の向上に向けた取り組み ・収穫作業の雇用確保	○ホソバオケラ栽培の検討、薬用作物栽培状況現地調査(7月15日) ・参加者:農技センター、山間試験場、県環境共生課、高吾普及所、ヒューマンライフ	・ホソバオケラは今年の秋、農家に株分けし、3月頃植えつける予定。乾燥はヒューマンの施設が利用できる。(収穫まで2年かかる)	/	/	/
8月	○関係機関チーム会の開催 ・サンショウの収穫状況把握		○ミシマサイコ実証圃の抑草管理 ・佐川町での本コブセンチュウ抑制実証圃 ・日高村での水田栽培実証圃	・一部発芽の不揃いあり。 ・除草剤の効果が不十分で、定期的な抑草管理が必要。			
9月	○関係機関チーム会の開催 ・本年度生育状況の把握	次年度の事業計画の協議 ・ミシマサイコ新規栽培者募集					

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	○関係機関チーム会の開催 ・ミシマサイコ種子の収穫について ・サンショウの秋芽接ぎ木 ・意向調査に基づく作物の選定	新規栽培者の確保					
11月	○関係機関チーム会の開催 ・ミシマサイコ収穫作業支援 ・ミシマサイコのネコブセンチュウ試験圃調査	・ミシマサイコ収穫についての検討 ・新規栽培者への学習会					
12月	○関係機関チーム会の開催 ・ミシマサイコ次年度作付計画の把握 ・ミシマサイコの水田地帯での実証ほ設置 ・サンショウの冬期防除指導 ・ミシマサイコの年間指導計画の策定	・ミシマサイコの作付拡大					
1月	○関係機関チーム会の開催 ・ミシマサイコ播種に向けた指導	・ミシマサイコ発芽率の向上対策					
2月	○関係機関チーム会の開催 ・ミシマサイコ播種後の除草指導	・ミシマサイコ播種後の除草指導					
3月	○関係機関チーム会の開催 ・本年度実績と次年度取り組み検討	・21年度実績の分析 ・低収量農家に対する支援策					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	チーム会を開催し、薬用作物全般に向けた事業計画を検討。ミシマサイコの線虫の農業登録に向けた実証圃を設置。転作物として耕作放棄地の解消に向けた実証圃を設置。ほぼ計画に沿った取り組みができています。	I 「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II 「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	実証圃の定期的な抑草管理等を実施し、栽培可能な圃場拡大に必要な条件を探る。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川流域(仁淀川町、佐川町、日高村)			項目	10 力強い高糖度トマト産地の確立			
事業概要	地域の特産品の高糖度トマトに新たなブランドを加えることにより、付加価値を高め、産地間競争力を強化し、生産者の所得の向上につなげる。				事業主体	JAコスモス JAコスモストマト生産部		
主な内容	高糖度トマトの産地間競争力の強化	地域AP掲載ページ	108	指標	高糖度トマト販売金額 2.9億円	目標値(H23)	5億円	

実行支援チーム長	
所属	中央西農業振興センター高吾農業改良普及所
氏名(連絡先)	岡崎公秀 (0889-22-1175)

月	内容	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題		
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等				
4月	○関係機関チーム会開催 (チーム体制、会の持ち方、年間活動計画を作成) ・土壌消毒機要望把握 ・栽培・病害虫防除巡回指導(以下毎月) ・選果ライン整備事業説明会	・計画と実際栽培する農家との意識のズレ ・地元負担が多額 ・技術レベルに個人差が大きい ・適正な事業の選択と申請書作成	○関係機関チーム会開催 ・チーム体制と年間活動計画作成 ・土壌消毒機要望調査(要望なし) ・栽培・病害虫管理指導 立枯症状の診断 →土壌病害と判別し、土壌消毒指導(4戸) ・選果ライン整備事業説明会 活用事業の変更 こうち農業→産業振興推進総合支援事業 5月採択	・年間計画と役割分担が明確となった。 ・土壌消毒機導入については今年度は要望なし。 ・同様の症状が他の圃場でも発生しており、早急な診断が必要。 ・町負担の活用を含め、生産者負担が1/2から1/6に軽減された。					
5月	○関係機関チーム会開催 (販促資材を活用した販売計画の検討 出荷予測中間評価・分析) ○夏秋トマト勉強会 (夏秋トマト出荷予測システムの稼働) ○土壌消毒勉強会	・農協との意識の統一 ・出荷予測の年次変動が大きい ・農家の意識啓発 ・土壌消毒の重要性啓発	○関係機関チーム会開催 ・出荷予測中間評価を行った結果、現状は予測より少なかった。 ○夏秋トマト勉強会 ・出荷予測システムの稼働 ○ウイルス病対策勉強会 ・作終了後のハウス蒸しこみの徹底指導	・出荷量が減となった原因は、病害や草勢により出荷できない果実が多発したためと思われる。これに対し、次作は、栽培管理指導を徹底する。 ・各農家に調査方法を指導する。 ・ウイルス病対策としてハウス蒸しこみの必要性が生産者に十分理解された。					
6月	・促成栽培管理指導	・病害虫耕種防除の啓発	○土壌消毒勉強会 ○作付け準備指導 ○選果ライン整備 産業振興推進総合支援事業交付決定(選果トレサビ等関連設備)	・新規薬剤等を活用した土壌消毒の必要性の認識強化 ・個別ヒアリングによる作付計画の確認 ・新たな選果ラインを活用した販売計画、栽培計画を検討	・規格外として多く発生している軟果の加工検討を追加				
7月	○関係機関チーム会、個別カウンセリング(促成) (次年度産地目標作成 個別栽培計画作成 販売戦略の構築) 促成における出荷予測システムの評価) 個別経営計画の作成(個別カウンセリング) ・勉強会、巡回指導 (病害虫防除(特に耕種防除)の徹底)	・産地のまとまり意識の醸成 ・適正な栽培・経営レベルの構築 ・生産者との販売目標共有 ・産地の問題点の把握、分析 ・個人ごとの経営上の課題の整理、個人目標と部会目標とのさびわけ ・難防除病害虫に対して決め手となる防除方法がない。	○個別カウンセリングによる栽培計画作成 ○栽培反省会、巡回指導 ○個別カウンセリングにより、JAの販売計画の元となる産地の意向把握が出来た。 ○個別カウンセリングによる経営計画の聞き取り(16戸/16戸) ○媒介虫の侵入防止対策、殺虫剤の効果的な使用、罹病植物の適正処理等基本技術の徹底を呼びかけた。 ○軟果、引き上げ時のトマトを加工業者に持ち込み、液状に加工し冷凍保存している。	・個別作付計画ができた ・栽培と販売がマッチして進んでいけるように調整を行う ・個別カウンセリングにより生産者の経営上の課題がチーム会や産地で共有出来た。 ・高糖度多収技術の現場レベルでの確立に向けた情報・データ収集に向け意識が高まった。 ・病害虫防除技術の普及 ・冷凍加工品の活用方法、軟果の発生量、保存方法や保存場所などを今後検討していく必要がある					
8月	○促成トマト総会 (20年度産地目標の評価、21年度産地目標の策定) ・夏秋トマト個別カウンセリング (夏秋生産者の経営を中間評価する) ○促成トマト勉強会	・産地のまとまりづくり ・目標と実績のギャップが予想される。	○促成トマト販売反省会 20年度産地目標の評価、21年度産地目標策定に向けた協議を行った。	・20年度産地目標は達成率は出荷量72%、販売金額45%、単価63%で供給量が不安定で予約相対取引で敬遠されたこと等が流通関係者から指摘された。現場での対応を協議中。					
9月	○関係機関チーム会 (難防除病害虫耕種防除の効果評価)			・促成トマト総会は9/9に開催。 20年度の生産、販売が目標を大きく下回っており、21年度の目標策定に協議期間を取り、9月に変更 ・夏秋トマト個別カウンセリングは9月上旬に設置予定。 生産者に健康を害した方や地区の役職等でカウンセリングできない方があり、開催日程を変更					

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(O)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	○関係機関チーム会 (販売データ分析、試算)		・データ分析方法の確立				
11月	○関係機関チーム会 (果実品質目標の作成 選果機改修による販売計画の作成)		・関係者、生産者全体の目標共有				
12月	・消費地調査 (消費者ニーズの調査)						
1月	○関係機関チーム会 (夏秋出荷予測システムの評価) ・促成生産者カウンセリング (経営状態の確認)		・データ蓄積が不十分				
2月	○消費地調査 (消費者ニーズの調査・分析 果実品質目標の評価)		・評価方法の確立				
3月	○関係機関チーム会 (活動の総括及び来年度の課題、活動計画整理)		・関係機関の意識統一				

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	関係機関チーム会により年間活動計画を作成し、計画的な取り組みを進めている。高精度トマトの新たなブランド化に向けた施設整備については産業振興推進総合支援事業で採択され、着実な取り組みができています。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること。
第2四半期(上半期)	○	年間活動計画に基づく取り組みに加え、加工品の試作にも取り組み始めた。しかしトマトの単価は近年急速に下落しており、生産者個々の経営は厳しくなっているため、販売戦略や経営計画立案が困難になっている。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域アクションプラン進捗管理シート

作成日: 平成21年8月26日

地域	仁淀川流域(越知町・佐川町・日高村)		項目	11 地域を支える基幹品目(サンショウ)の振興 3/3		
事業概要	中山間地域の圃場条件や気象条件を活かした基幹品目(サンショウ)の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。				事業主体	越知町山椒生産組合
主な内容	栽培技術の向上、安定的な生産の維持	地域AP掲載ページ	108	指標	目標値(H23)	

実行支援チーム長	
所属	中央西農業改良普及センター高吾農業改良普及所
氏名(連絡先)	岡崎 公秀 (0889-22-1175)

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	○越知町山椒組合総会 ・環境と調和のとれた農業の推進 ・ごち環境安全安心点検シート(その1 農業者用)記入 ・栽培管理簿(トレーサビリティ)導入 ○チーム会の開催・青実出荷目慣らし	・農家への取り組みの必要性の啓蒙	○越知町山椒組合総会(4月25日) ・トレーサビリティの必要性と様式への記入方法説明 ・GAP点検シートの記入方法説明 ・サンショウの栽培層説明 ・市場状況説明	・トレーサビリティは出荷時に提出することが徹底された。 ・GAP点検シートは、出席者全員(35名)が提出した。 ・栽培ポイントや農業安全使用について徹底できた。 ・乾燥実の単価が高くなる組合からの脱退者が後を絶たない、古い組合員から順に転向し、90名が50名程度になっている。(新規栽培者の中には、技術の習得が終われば兼用に転向してしまっている者もいる。) ・「仁淀川山椒七味」の唐辛子も越知町産に切り替えたい。			
5月	・青実出荷開始(5/5~) ・ごち環境安全安心点検シート(その2 集出荷所用)記入 ・出荷時、栽培管理簿チェック	・早期出荷方法の検討	○青実出荷目慣らし会(4月27日) ・出荷時の注意点について確認 ○青実出荷(5月2日~22日)	・高知産サンショウは早期出荷が重要である点、異物混入への注意が確認できた。 ・出荷時栽培管理簿についてチェックを行った結果、問題はなかった。 ・青実出荷は15tの計画量は確保でき、価格も比較的安定していた。 ・最後は京阪神での新型インフルエンザの影響で消費にブレーキがかかった。 ・加工では冷凍庫が必要になっており事業化を希望したい(組合)。 ・今後の管理はサビ病の防除がポイントになる。			
6月	○チーム会の開催 ・ほ場管理の徹底(さび病、ハダニ類防除・追肥施用)	・病害虫の発生状況に応じた防除 ・防除基準に基づく農薬の適正使用 ・農薬飛散対策の実施 ・施肥基準による施肥	○関係機関のチーム会の開催(5月20日) ・青実出荷状況の把握 ・加工品の検討 ・今後の管理について				
7月	○チーム会の開催・乾燥実出荷(7月上旬~8月中旬) ・出荷時、栽培管理簿チェック	○防除基準に基づく農薬の適正使用のチェックの徹底	○関係機関のチーム会の開催(6月9日) ・青実出荷最終実績の把握 ・加工品の検討 ・今後の栽培管理(病害虫防除)について	・加工品作りに必要な冷凍庫についての検討が必要 (冷凍庫事業化) ・食用と薬用サンショウの棲み分けについて検討が必要 (山椒組合とヒューマンライフ(薬用)間の調整)			
8月			○関係機関のチーム会の開催(7月8日) ・サンショウほ場の巡回調査	・山間地では有望な作物ではある反面、短期間での収穫作業の大変さが実感できた。 ・栽培者のニーズを調査し、収穫作業を支援する仕組みの検討も必要である。 ・加工品のデザイン等については専門家のアドバイスも必要である。			
9月	○チーム会の開催・出荷反省会	・今年度のお荷状況の把握	○関係機関のチーム会の開催(8月6日) ・加工品の検討 ・9月の旭食品主催の商談会「2009」出品に向けた支援 (一味山椒、七味山椒のパッケージデザインについて) ・青実の貯蔵施設についての検討				
			○関係機関のチーム会の開催予定(9月8日) ・加工品の検討				

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	・元肥施用						
11月							
12月	○剪定講習会 ○土壌調査 ○チーム会の開催 ・葉山椒栽培検討 ・加工検討(仁淀川山椒七味) ○冬季防除講習会	・整枝、剪定枝の適正処理 ・土壌診断に基づく施肥 ・葉山椒栽培層作成 ・七味配合物の検討 ・適期防除					
1月							
2月	○チーム会の開催 ・栽培指針作成	○葉山椒、青実、乾燥実出荷のための総合的な栽培指針					
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	総会や毎月のチーム会を通じて、出荷規格やトレーサビリティの徹底により市場から評価される品の計画出荷ができた。新たな加工品について検討を進めている。また、青実の貯蔵に向け検討中。ほぼ計画的な取り組みができています。	I「進捗(達成)度」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	毎月のチーム会等を通じて、加工に向けて貯蔵施設や加工品について検討を行っている。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川流域 <佐川町>		項目	12 集落営農による地域にあった農業の仕組みづくりの推進			実行支援チーム長			
事業概要	集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労働力などの地域資源を利用して集落営農を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の組織づくりを行う。				事業主体	佐川町平野集落		所属	中央西農業振興センター高吾農業改良普及所	
主な内容	こうち型集落営農モデル組織等の育成		地域AP掲載ページ	108	指標	集落営農組織数	目標値(H23)	1組織	氏名(連絡先)	鍋島 佐知子 (0889-22-1175)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する ●=チーム活動等、○=平野集落での活動	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等) ●=チーム活動等、○=平野集落での活動	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月	●チーム体制づくり ○役員会への支援 補助事業申請準備、基盤整備地での営農計画 ○導入品目の栽培管理、実証・展示 ピーマン、ミニマサイコの栽培管理指導 ニンニク、ネギ(前年から継続中)の栽培展示		●チーム員での連携活動	●関係機関連携会議(4/7 町、センター企画、普及)…新体制で集落営農と基盤整備事業(県単)を円滑に推進するため、経過・現状の把握と事業申請に向けた打合せ ●チーム体制づくり(4/20)…チーム員(町、農協、普及)の了承を得て体制整備 ○役員会(4/17、4/28)…新年度初顔合わせ、経過・現状の把握、基幹品目の作付計画、県単事業申請準備 ○導入品目の栽培管理、実証展示等…流通研修会(4/20) ●関係機関連携会議(5/13 町、センター基盤、普及)…環境点検結果への対応について協議	関係機関の職員の変動に伴い、これまでの経過等を互いに把握できていなかったため、すぐにスタートを切れない状況にあった。このため、まずは関係機関で、情報・認識の共有化を図ることに重点をおいて活動を行った(4~5月)。これにより、集落への支援や補助事業の申請について、関係機関で協力することができるようになった。 集落では、役員を中心として、基盤整備予定地での協業体制、作付計画等の検討や総会に向けた準備を通じて、今年度の活動計画と目標を作成することができた。また、基盤整備事業導入に向け、計画づくりと行政に申請できる準備ができた。 有望品目導入については、基幹2品目の、作付は予定どおり行われている。現在実施中の品目は、今後、成績をまとめて評価をしていく。		
5月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 補助事業申請準備、基盤整備地での営農計画、販売先の検討、総会準備、事業計画及び予算(案)作成、年間活動スケジュール、組織の体制づくり、機械所有状況の補足調査 ○総会への支援 事業計画及び予算の承認、年間の活動スケジュール、組織の体制づくり ○導入品目の栽培管理、実証・展示 ピーマン、ミニマサイコの栽培管理指導 ニンニク、ネギ(前年から継続中)の栽培展示	●チーム員での連携活動 ビジョンや営農計画を達成するために、営農組合役員自らが活動計画等を立てられるよう、チームで適切な助言をすること ●導入品目(ニンニク)の販売先の確保	●チーム会(5/21)…集落リーダー育成のための研修	○役員会・運営委員会(5/8、13、25)…基幹品目の作付計画、県単事業申請準備、平成21年度総会準備(事業計画、収支予算等)、年間の活動スケジュール ○導入品目の栽培管理、実証・展示…土作り講習会(5/11)、追加品目の検討、ニンニク・ネギの出荷状況聞き取り			
6月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 機械の共同利用・作業受委託研修会 米の生産販売状況調査 ○導入品目の栽培管理指導、実証・展示 ピーマン、ミニマサイコの栽培管理指導 ニンニク、ネギ(前年から継続中)の栽培展示	●機械の共同利用や作業受委託に対する役員らの意識の醸成、方策のヒントを探し出すこと	●チーム会(下旬) ○総会(6/3)…平成21年度事業計画等の承認 ○役員会…活動スケジュールの検討、所有機械・米の生産販売状況調査 ○導入品目の栽培管理指導、実証・展示…栽培研修会、追加品目の検討、ニンニク・ネギの成績とりまとめ				
7月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 組織運営の視察研修、農地の現況調査 ○導入品目の栽培管理指導、実証・展示 ピーマン、ミニマサイコの栽培管理指導 ニンニク、ネギの実績評価	●農地の現況調査にあたって、役員らを始めた集落農家及び農業委員会の協力が必要 ●実証・展示品目(ニンニク、ネギ)の好評価が得られるか	●チーム会(7/29)…集落リーダー育成のための研修計画 ○役員会(7/8、22)…アンケート調査結果集計、業ニニクの共同栽培計画、基盤整備事業着手準備 ○基盤整備事業…入札会(7/17)、着工 ○導入品目の栽培管理、実証・展示…業ニニク栽培講習及び青ネギ実証評価(7/6)	今年実施する業ニニクの栽培実証を、共同栽培で取り組むことを計画したことで、組織活動の本質を考え、実行する機会をつくることができた。 組織活動について、業ニニクの共同栽培に取り組む一方で、機械の共同利用・農作業受委託等への取り組みがやや遅れ気味となっている。 基盤整備事業については、関係機関で連携した取り組みができ、円滑な事業導入・着手につながった。			
8月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 組織運営、機械の共同利用・農作業受委託、農地の現況調査、稲作の事例研究 ○導入品目の栽培管理指導、実証・展示 ピーマン、ミニマサイコの栽培管理指導 業ニニクの栽培実証	●機械の共同利用・農作業受委託を集落で進める方策を考え出すこと ●稲作の推進方策の鍵となる事例収集や提案 ●業ニニクの栽培ほ場・担当農家の確保	●チーム会(8/25) ○役員会(8/19、26)…業ニニクの共同栽培準備、全体会開催準備 ○全体会(8月下旬)…経過報告、業ニニク共同栽培 ○導入品目の栽培管理、実証・展示…業ニニク・サカキ・シキミ栽培講習(8/3)				
9月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 組織運営、機械の共同利用・農作業受委託、農地の現況調査 ○集落全体会への支援 活動経過の報告、意見交換 ○導入品目の栽培管理、実証・展示 ピーマン、ミニマサイコの栽培管理指導 業ニニクの栽培展示	●上半期の活動経過について組合員と情報を共有し、組合活動の推進につなげること	【予定】 ●チーム会(9月下旬) ○役員会(2回)…業ニニクの共同栽培、組織の機能と体制づくり、農地現況図作成 ○基盤整備事業 進行状況の把握と現場助言指導 ○導入品目の栽培管理、実証・展示…業ニニク実証ほ設置(定植)、下半期活動計画検討(9/7)				

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する ●=チーム活動等、○=平野集落での活動	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等) ●=チーム活動等、○=平野集落での活動	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHLの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 機械の共同利用・農作業受委託 ○導入品目の栽培管理指導、実証・展示 ピーマン、ミシマサイコの栽培管理指導 葉ニンニクの栽培展示	オペレーターや補助作業員の確保 共同利用する個人機械の選定と共同利用機械導入の必要性の検討					
11月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 機械の共同利用・農作業受委託の規程、稲作の推進方策、 農地の現況図作成、来年の作付計画 ○導入品目の栽培管理指導、実証・展示 ピーマン、ミシマサイコの栽培管理指導 葉ニンニクの栽培展示	農地の現況図の有効活用(作付計画、農作業受委託、稲作推進方策)					
12月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 機械の共同利用・農作業受委託の推進、稲作の推進方策、22年の作付計画 ○導入品目の栽培管理指導、実証・展示 ピーマン、ミシマサイコの栽培管理指導 葉ニンニクの栽培展示	基盤整備地での協業化、共同作業等の計画					
1月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 総会準備、協業計画、農作業計画 ○総会(定例総会)への支援 ○導入品目の栽培管理指導、実証・展示 ピーマンの実績評価、ミシマサイコの栽培管理指導	基盤整備地での協業化、共同作業等の開始 役員を中心とした組織運営の実践(作業の調整等)					
2月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 共同作業の計画・実施、農作業受委託契約の締結 ○導入品目の栽培管理指導、実証・展示 葉ニンニクの実績評価、ミシマサイコの栽培管理指導	役員を中心とした組織運営の実践(作業の調整等) 葉ニンニクの高評価					
3月	●チーム会 ○役員会、運営委員会への支援 共同作業の計画・実施、農作業受委託契約の締結 ○導入品目の栽培管理指導、実証・展示 ミシマサイコの実績評価	役員を中心とした組織運営の実践(作業の調整等)					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	総会で事業計画、収支予算が承認され、ほぼ順調に営農組合の活動が進んでいる。有望品目の実証圃も決定。せまち直しについても中山間地域集落営農等支援事業の内定があり、取り組みが進んでいる。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	関係機関との連携により、基盤整備事業の導入や園芸品目の共同栽培への取り組みが予定どおり進んでいる。遅れている機械の共同利用・農作業受委託・農地利用現況把握・稲作推進方策の検討については、組織体制を固める取り組みを優先させるようにする。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<佐川町>		項目	13 食育の推進を通じた地元産品の販売促進			実行支援チーム長	
事業概要	子供たちへの食育を通じて地元産品に対する地域住民の認識を深めることで、販売の促進や新たな商品づくりにつなげる。				事業主体	佐川町、JAコスモス		
主な内容	食育を通じた地元産品への認知度の向上		地域AP掲載ページ	110	指標	目標値(H23)	氏名(連絡先) 鍋島 佐知子 0889-(22-11)75	

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題		
4月	<p>記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する ・チーム活動、〇さかわ地産地消推進協議会等を中心とした活動 ・チーム体制づくり</p> <p>・関係機関との打合せ アクションプランうち合わせ、「高知ジュニア博士育成事業」「好き好き高知野菜大好きっ子育成事業」の情報共有</p>	<p>記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する</p> <p>・JAのメンバーの選定 ・小学校への情報の確認方法</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)</p> <p>・チーム体制について打ち合わせ 4月24日</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果</p> <p>チーム体制の決定</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画</p>	<p>記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等</p>			
5月	<p>・第1回チーム会の開催 年間活動の検討と各種事業について情報共有</p> <p>〇第1回さかわ地産地消協議会の開催 事業計画及び予算(案)作成、年間活動スケジュール、各組織の連携・協力体制づくり</p>	<p>・各組織(チーム員)での連携活動と主体的に関わる意識づけ ・各機関の具体的な活動の明確化と、各組織の事業主体性と実施方法についての検討</p>	<p>・関係機関との打合せ 5月1日 アクションプランについて、「高知ジュニア博士育成事業」「好き好き高知野菜大好きっ子育成事業」等の情報共有 ・第1回チーム会の開催 5月26日 年間活動の検討と4月～の活動実績、現状の確認 関連事業について情報共有と取り組みについて検討</p>	<p>・年間計画が作成でき、関係機関との共通認識ができた。 ・小学校のカリキュラムに食育を入れてもらうには、前年の10月までに教育委員会、学校と生産者の検討会を開催し計画を作る必要が判明した。そのためにも、本年度は、試行として1小学校(黒岩小)で二学期か三学期に年1回、佐川茶の出前授業が実施できるように教育の方に依頼をすることになった。場合によっては、関連事業の活用も検討することになった。</p>					
6月	<p>・第2回チーム会の開催 計画の進捗状況、課題の整理 学校での取り組み状況について検討</p> <p>〇JA(青壮年部)による小学校5年生への田植え出前授業</p>	<p>・4～6月振興状況と今後の活動の方向 各組織への協同支援方法の検討 取り組みへの働きかけ ・協力体制づくり</p>	<p>〇JA(青壮年部)による小学校5年生への田植え出前授業の実施予定 6月2日9:30～11:00 〇第2回チーム会 6月23日 学校での取り組み状況について検討、関連事業についての検討</p>	<p>〇佐川町の特産お茶の消費拡大について食育が検討できた</p>					
7月	<p>〇人材資源の検討会 教員への食育について研修のあり方検討</p>	<p>・地域農産物の特徴と消費状況の認識強化、県等の各種事業の周知</p>	<p>〇JA(青壮年部)と佐川町小学校5年生へのお茶出前授業について教頭等との打ち合わせ 7月2日9:30～11:00 〇人材資源の検討会は開催されず</p>	<p>〇佐川町小学校とJA青壮年部の意識が高く活動計画(特産お茶の消費拡大)についての検討ができた。高知ジュニア博士育成事業を導入。</p>					
8月	<p>・第3回チーム会 計画の進捗状況および課題の整理</p> <p>〇第2回さかわ地産地消協議会の開催 活動経過の報告、意見交換</p>	<p>・7月～9月までの進捗状況と推進方向の確認 ・具体的な活動の確認と役割分担 インストラクターの認定についての確認</p>	<p>〇尾川の秋まつり、たらふく秋まつりについて佐川町生活改善グループ連絡協議会で役員の打合せ会の実施。 〇米粉についての視察実施。</p>	<p>〇佐川町役場では観光関連の行事が多く、また、JAでは園芸年度末で行事が多くチーム会は開催できなかった。 〇尾川の秋まつり、たらふく秋まつりに向け、茶及び米の消費拡大の準備が始まった。</p>					
9月	<p>〇第1回 茶の出前授業の実施</p>	<p>・インストラクター(生産者)の実施方法と組織間の役割分担</p>	<p>〇第3回チーム会</p>	<p>〇第3回チーム会(9月15日予定) 学校での取り組み状況について検討、関連事業についての検討 ・佐川小学校での取り組み方法は検討できる。地産地消協議会の活動展開について検討が必要 ・地産地消協議会が開催されていないため、佐川町全体の主な計画が未定</p>					

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する ・チーム活動、○さかわ地産地消推進協議会等を中心とした活動	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	○JA青壮年部福刈りの出前授業 ○第2回 茶の出前授業の実施 ○尾川の秋まつり(佐川町生活改善グループ連絡協議会) 郷土料理の伝承 ○たらふく秋まつり(佐川町生活改善グループ連絡協議会) 直蒔栽培の米粉を活用した料理、加工品の啓発	・各組織からの協力 ・出前授業の工夫の検討 ・子供にも理解しやすい資料作成 ・栽培方法と米粉利用による自給率の向上を子供や住民に啓発する方法					
11月	・第4回チーム会 計画の進捗状況および課題の整理 ○第3回さかわ地産地消協議会の開催 活動経過の報告、意見交換 ○第3回 茶の出前授業の実施 ○JA青壮年部による出前授業(稲)バザーや餅つきでの消費	・10月～12月までの進捗状況と推進方向の確認 ・各組織の活動状況の交換と合同の活動計画・出前授業の工夫 ・人材の確保 ・小学生の理解度調査					
12月	○第4回 茶の出前授業の実施	・活動の進捗状況					
1月	○第5回 茶の出前授業の実施	・出前授業の取り組みの工夫まとめ					
2月	○第4回さかわ地産地消協議会の開催 活動経過の報告、意見交換、年間活動実績のまとめ ○第6回 茶の出前授業の実施	・各組織の年間活動の総括と次年度からの活動予定について検討 ・出前授業のの評価と次年度への計画づくり					
3月	・第5回チーム会 計画の進捗状況および検討内容の整理、今後の取り組み	・年間活動の総括内容					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	地産地消協議会が食育活動の主な活動母体であるので引き続き事務局を促し計画どおり促す。	I 「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II 「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	地産地消協議会が食育活動の主な活動母体であるが事務局が観光行事等で忙しく活動につながらなかった。予定外の佐川小学校でのお茶の食育が関連事業導入も併い計画ができた。秋の行事までにおくれをとりもどすように検討をしていく。また、地域の女性組織が活発になった。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川地域全域		項目	14 間伐の推進				実行支援チーム長			
事業概要	「森の工場」を核にして、林業事業者や担い手の育成などに取り組み、間伐の推進と素材の増産を図る。				事業主体	森林組合・林業事業者など			所属	中央西林業事務所	
主な内容	◆「森の工場」の実施と樹立 ◆施業計画の樹立と計画的な施業の実行 ◆林業事業者の育成 ◆担い手の育成			地域AP掲載ページ	110	指標	木材の素材生産量(H18 6.3万m3)	目標値(H23)	7.1万m3	氏名(連絡先)	山崎 和利 (088-893-3612)

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月		・新規樹立予定事業者の支援(市町村森林整備計画変更:事前協議) ・既設5工場(上八川・用居・別枝・長坂・潰溜)育成指導		既設5工場、年度別計画提出・承認済み	4月13日～18日に、5工場全て承認済み。今後は、この計画に基づいて実行をサポートしていく。	/	/
5月		・新規樹立予定事業者の支援(市町村森林整備計画変更:仁淀川町公告縦覧30日間)		仁淀川町森林整備計画変更済み	5月27日協議済み。今後は、森林施業計画作成指導を行う。		
6月		・新規樹立予定事業者の支援(森林施業計画作成指導)					
7月		・新規樹立予定事業者の支援(森林施業計画承認申請作業)		<ul style="list-style-type: none"> 「安居土居地区」森林施業計画認定請求(7/14):池川林産企業組合 「安居土居地区」森林施業計画承認(7/15):役場 「大西地区」森林施業計画認定請求(7/23):(株)ソニア 「大西地区」森林施業計画承認(7/24):役場 「大西地区」森の工場実施計画承認申請(7/24):(株)ソニア→林業改革課 「太田地区」森林施業計画認定請求(7/30):(株)和泉工業 			
8月		<ul style="list-style-type: none"> ・新規樹立予定事業者の支援(森の工場樹立作業) ・新規樹立予定事業者の支援(森の工場承認申請) 		<ul style="list-style-type: none"> 「太田地区」森林施業計画承認(8/7):役場 「大西地区」森の工場実施計画承認(8/17):林業改革課 			
9月		・新規樹立予定事業者の支援(森の工場認定)		<ul style="list-style-type: none"> 「安居土居地区」森の工場実施計画承認申請(9月上旬):池川林産企業組合→林業改革課 「太田地区」森の工場実施計画承認申請(9月上旬):(株)和泉工業→林業改革課 	・当初計画(1工場)以外に新たに2工場樹立の見込みとなった。今後は、計画に基づく事業実施を支援していく。		

月	計画(P)		実行(D)	評価(O)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等	
10月	・新規樹立事業体の支援(作業指導等による事業体及び担い手の育成)!						
11月							
12月							
1月	・別途、新規樹立予定事業体の支援(森の工場概要説明等)!						
2月	・既設工場次年度計画の指導(間伐面積、生産量等)						
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	既設5工場の事業実施を指導する。新規予定事業体については、計画どおり9月の森の工場認定に向けて事業体を指導する。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	◎	既設5工場の事業実施を指導中。新規工場については、計画より多く樹立出来る見込み(1→3)である。今後は、計画に基づく事業実施を支援していく。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川地域全域		項目	15 (株)ソニアを核とする仁淀川流域における木材産業の振興			実行支援チーム長		
事業概要	仁淀川流域における間伐の推進と素材の増産等に対応するため、(株)ソニアを核とする流域の製材工場等の経営体質の強化など、加工・流通の安定化に向けた取組を進め、木材産業の振興を図る。			事業主体	(株)ソニア・各事業体・各市町村・県 (中央西林業事務所・木材産業課)など			所属	中央西林業事務所
主な内容	◆流域産材の加工・流通の安定化に向けた取組		地域AP 掲載ページ	110	指標		目標値 (H23)	氏名(連絡先)	山崎 和利 (088-893-3612)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWI1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月							
5月							
6月	調査項目の検討						
7月	管内企業に対する聞き取り調査 対象:素材生産業者、製材工場、プレカット、チップ加工等 内容:現況及び今後の経営方針等		素材生産事業体と木材加工事業体別に調査項目を決定し、調査様式を作成した(7月下旬) 調査対象事業体数:素材生産17、木材加工15				
8月			調査様式に基づき、素材生産事業体は間伐担当、加工事業体は振興担当がそれぞれ役割分担し、直接聞き取りにより現在調査中(8月中旬以降)				
9月							

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月							
11月		調査結果の集計及び取りまとめ ・管内における木材流通の現状 ・関係事業者の経営方針	経済状況の悪化や材値の低迷により業界全体が冷え込んでいる				
12月		実務者レベルでの勉強会開催(随時)					
1月							
2月							
3月		仁淀川流域木材産業振興協議会(仮称)開催準備					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	調査項目及び既存データ等の整理を実施。今後は、管内企業に対する聞き取り調査を実施する予定であるが、4月以降の急激な市況の悪化により厳しい経営状態の企業が多く、聞き取りには困難が予想される。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	調査項目の決定等は予定より1月遅れの実行となっているが、調査期間は実施計画にそって実行する見込みである。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川地域全域		項目	16 県産材の地域における需要拡大			実行支援チーム長		
事業概要	県産材の利用推進と需要拡大のPR等を行うことにより、木材・木製品の地産地消を推進する。				事業主体	各市町村・県(中央西林業事務所)など		所属	中央西林業事務所
主な内容	◆県産材の地域内での需要拡大に向けた取組			地域AP掲載ページ	110	指標	目標値(H23)	氏名(連絡先)	山崎 和利 (088-893-3612)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月							
5月	平成20年度実績集計			※平成20年度実績集計を行う。 中央西林業事務所管内における木材利用量 ・市町村工事・・・225.18m ³ ・林業事務所工事・・・395.18m ³ ・他の県出先事務所工事・・・(本課において集計中)	・市町村工事における木材利用量 H19・・・242.80m ³ H20実績は、H19実績に比べ、若干、減少したものの、公共工事が減少するなか、県産材の利用は定着してきているといえる。 ・林業事務所工事における木材利用量 H19・・・683.73m ³ 林業事務所は、これまで木製型枠使用率100%、木製品(看板など)の使用率100%と積極的に取り組んでおり、そのなかで、年々、木材利用量が減少しているのは、公共工事の減少の影響が大きいといわざるを得ない。		
6月	公共工事に関する各市町村の取り組み状況調査						
7月				●管内市町村工事における木材利用の状況調査 ※木製型枠 基本的に木製型枠を使用する意識が根付いた。工事内容の違いにより、人口集中地域より中山間地域での使用が多かった。	市町村に聞き取りの結果、県に準じて木製型枠の使用が増えてきている。しかし、一部には木製型枠を使う意識の低い市町村もあった。		
8月	県産材地域推進会議の開催		公共工事の減	※工事用資材の木製品使用状況 県発注工事に比べ市町村発注工事の看板使用率が低い状況であった。(H19:17.2% H20:19.4%)	市町村工事は、小規模のものが多く、新規に木製看板等を購入することが少ないため、使用率が低い。		
9月	管内市町村への普及啓発(情報収集・木材使用の働きかけ)		市町村財政の困窮	●管内における公共建築物への木材利用の状況調査 ※仁淀病院新築工事 施設の一部内装に木材を使用する計画。材種は、スギ(地場産間伐材)1等。(腰壁、壁 スギ化粧板使用予定108.8m ²) ※佐川町立佐川中学校 校舎、体育館、武道場等の内装に、多くの地域材を使用している。使用量については、集計中。	仁淀病院に関しては、担当者が、設計前に病院関係者に対して直接木材使用をアピールしたこともあり、設計に盛り込まれた。 佐川中学校に関しては、当初、首長からも木造との意向があったが、3階建てという構造上の問題により鉄筋コンクリート造りとなった。しかし、当初の意向を踏まえ、壁面をすべて腰板にするなど、内装に県産材をふんだんに使っている。		

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等	
10月							県産材利用推進本部会の開催
11月						県産材地域推進会議の開催	
12月							
1月							
2月	平成21年度実績見込み調査						
3月	県産材地域推進会議の開催	H22に向けての取り組み					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	20年度実績集計を行った。今後は、県の県産材利用推進本部会議を受けて、地域推進会議を開催する予定である。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	△	一定、各市町村の公共建築および工事に関する県産材使用についての状況をつかむことができた。今後はこうした取り組みを踏まえ、地域推進会議を開催すべきところであるが、県産材利用推進本部会議の開催が遅れているため、実施計画どおりの時期に開催できなかった。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川町	項目	17 シキミ・サカキの販売拡大				実行支援チーム長		
事業概要	シキミ・サカキの生産量の増加等に対応した集出荷施設の整備や、品質向上のための取組などにより、販売を拡大し、生産者の所得の向上を図る。				事業主体	JAコスモス			
主な内容	◆シキミ・サカキの生産の拡大と品質の向上			地域AP掲載ページ	110	指標	シキミ・サカキの出荷量(H19 22t)	目標値(H23)	26t
所属	中央西林業事務所								
氏名(連絡先)	山崎 和利 (088-893-3612)								

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月							
5月							
6月							
7月	<ul style="list-style-type: none"> 栽培指針の配布 関係者との打ち合わせ(第1回)(販売拡大:20年度実績の分析、アンケート調査内容の検討) 		<ul style="list-style-type: none"> 生産者情報が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 関係者との打ち合わせ(第1回)(7/20:20年度実績(20t)、栽培指針の配布依頼、アンケート内容および配布、回収方法の検討) 	<ul style="list-style-type: none"> 20年度実績は前年比88%の20t。原因については、アンケート調査結果等により分析する予定。その後、対策を検討する。 		
8月	<ul style="list-style-type: none"> 関係者との打合せ(第2回)(販売拡大策:21年度事業計画の検討、アンケートの配布) 		<ul style="list-style-type: none"> 生産者の高齢化・後継者対策 	<ul style="list-style-type: none"> 8月下旬に生産部会役員を通じてアンケート調査用紙を配布予定。 8月下旬第2回打合せ予定。(今後のスケジュール等について) 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> 目慣らし会の開催 しきみ優良生産者の現地視察 生産台帳の整備・アンケート調査の回収(9月下旬) 			<ul style="list-style-type: none"> 目慣らし会の開催(9月下旬) 現地視察は10月に変更 生産者台帳の整備、アンケート調査の回収は10月下旬に変更 			

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	アンケート調査の分析・集計 ↓					・現地視察(高知市内の直販所及び市場)・生産台帳の整備・アンケート調査の回収(10月末)	
11月						・アンケート調査の分析・集計 ↓	
12月	・関係者との打合せ(第3回) (アンケート調査の結果報告・次年度以降の取り組みについての検討)						
1月	↓						
2月	・目標らし会の開催						
3月	・21年度実績の集計(達成状況)。						

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	栽培指針を作成したほか、生産者に対するアンケート調査の内容も検討中である。今後は、事業主体とともに生産者に接し、生産量のアップに向けた取り組みを行う予定である。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	△	栽培指針は計画どおり作成したが、生産者台帳の整備やアンケート調査回収、現地視察については、出荷時期と重なるため、10月以降に変更して実施することになった。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川	項目	18 うるめのブランド化					実行支援チーム長			
事業概要	「宇佐のうるめ」を原料とした新たな加工品の開発や鮮魚の販路の開拓により、需要の拡大を図ると共に、地域限定の名物食として提供できる体制づくりにより、観光分野への経済効果の波及を目指す。			事業主体					所属	地域づくり支援課	
主な内容	「宇佐のうるめ」のブランド化			地域AP掲載ページ	112-113	指標	うるめの水揚げ量	目標値(H23)	150トン	氏名(連絡先)	市川 なえ子(088-852-1172)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	<ul style="list-style-type: none"> 協議会への移行検討 実施事業の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 関係者の「ブランド」イメージ、課題、方向性の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> 16日、うるめの月別成分分析用サンプル確保・前処理 21日、うるめいわしブランド化プロジェクト開催【本年度事業計画案等の検討】 	<ul style="list-style-type: none"> 当課題は商工会が先行して位置づけられたものであるが、魚のブランド化についてはブランド化に耐えうる漁業サイドでの取り組みが不可欠である。 			
5月	<ul style="list-style-type: none"> 宇佐ウルメブランド化協議会の設立 代表メンバー(代表者・役員)の決定 事業計画の決定と推進体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 協議会の推進体制の整備 迅速な意思決定と意見集約の場としての機能確立 協議会主体性と実施体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 2日、宇佐大鍋まつりで「うるめつみれ汁」2000食を販売【好評を得る。】 11,13日、うるめ漁獲データ等収集 13日、うるめいわしブランド化プロジェクト開催【協議会への移行について協議、準備幹事選定】 14日、うるめの月別成分分析用サンプル確保・前処理 15日、高知大学・土佐市連携協議会準備会で「高知県内の地域資源と食品加工」と題してウルメ鱈を中心とした水産資源についての講演と意見交換を実施 20日、平成20年度土佐市いいものブランド化支援事業成果報告会にて昨年度実績を発表 26日、漁協との打ち合わせ【宇佐地区の漁業概要と課題、漁業者グループ立ち上げの可能性等について】 29日、地域力創造アドバイザーが地域の各団体、海洋高校とうるめをはじめとする宇佐地域活性化策について打合せ 	<ul style="list-style-type: none"> このため、事業実施主体としての組織体制整備、事業計画の精査、審査会応募に取り組むと共に、漁業者の取組組織作りについて県漁協宇佐支所との協議を開始した。 この間の各種会議から、「宇佐のウルメブランド化」について関係者のビジョンが明確でなく、またそのイメージも商工会サイドと漁業者サイドでは立場の違いもあって異なっているように見受けられる。 今回の当アクションプランの熟度を高めていく過程で、ブランド化ビジョンの明確化やその共有についても事業実施主体のなかで協議を積み重ねていく必要がある。 また、この取組自体が土佐市が進める様々な事業との関連性も浮き上がってきていることから、改めて効果的な実行支援チーム体制の必要性も高まってきている。 			
6月	<ul style="list-style-type: none"> 事業申請書の作成と申請(産業振興推進総合補助金) 関係漁業者の意見交換の場設定 	<ul style="list-style-type: none"> 漁業者の意向確認と取組意欲の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 16日、プロジェクト協議会設立 19日、実行支援チーム会議 				
7月			<ul style="list-style-type: none"> 19日 うるめ試作品づくり講習(海洋高校で「すりみ」づくり) 21日 高知県産業振興推進総合支援事業費補助金審査会(審査通過) 				
8月	<ul style="list-style-type: none"> 加工品の開発、試作(以後継続) 鮮魚試験販売、市場調査(以後継続) ウルメの成分・鮮度等の調査(3月まで実施) 	<ul style="list-style-type: none"> 付加価値の高い加工品の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 5日 うるめ成分検査について打ち合わせ 7日 高知県産業振興推進総合支援事業費補助金事業採択通知 10日 土佐市より交付申請及び指令前着手届提出 12日 エノテカ・ノリーオ守中シェフによる、うるめの加工品づくり実習(場所:海洋高校) 19日 高知市内飲食店と鮮魚取扱い協議 20日 高知市内・土佐市内飲食店と鮮魚取扱い協議 20日 補助金指令前着手受理通知 24日 中央西福祉保健所と営業許可について協議 	<ul style="list-style-type: none"> 鮮魚販売試験については、うるめ協議会が中心となって飲食店等と協議。 うるめ加工品(レトルト)の時間経過による食味変化をうるめ協議会が実施、また、各種鮮度試験など各機関の協力的体制で進められている。 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> ウルメ漁業者会(仮称)の設立 	<ul style="list-style-type: none"> ウルメブランド化への意識付け 					

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	加工品試作 パッケージ、PR資料作成 加工品モニタリング・市場調査						
11月							
12月	ウルメ漁業者会・鮮度保持関係講習会	鮮度管理、漁法改善への動機づけ					
1月	イベントによるPR	継続的な取り組みとする仕組みづくり					
2月							
3月	事業成果の検証 事業組合等の設立検討						

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	事業実施体制及び漁業者取組組織作りにより一定の前進ができた。 翌四半期以降においては、関連し始めた土佐市事業との相乗効果の発揮と実証的な事業実施を踏まえて、熟度の向上と漁業者サイドの組織・活動支援の取り組みを強化していく。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	鮮魚販売、加工品づくりともに実施体制に入ることができた。 翌四半期以降については、加工品の試作品製作、マーケティング活動を進めるとともに、鮮度試験、鮮度保持のしくみづくりを進めていく。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域アクションプラン進捗管理シート

作成日: 平成21年8月26日

地域	仁淀川地域	項目	19「土佐和紙」の販売促進《いの町》				
事業概要	地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙の県内外での消費拡大を図り、原料や担い手の確保につなげる。			事業主体	いの町		
主な内容	◆「土佐和紙」の消費拡大に向けた取組		地域AP掲載ページ	112	指標	土佐和紙の販売額 (H19 1.6億円)	目標値 (H23) 1.6億円

実行支援チーム長	
所属	工業振興課
氏名(連絡先)	小松 立和 (823-9720)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(O)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWI1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
5月	○メンバー選定 ○第1回実行支援チーム会 「販路の拡大」へ向けた取組事項の確認 ・「土佐和紙まつり」 ・トリエンナーレ展を活用した販路の拡大 ・ターゲットを絞った営業の展開 ・地産地消 ・土佐楮原料生産実態調査	H20地域アクションプラン検討ワーキンググループ(紙産業分野)参加者を基本とし、必要に応じて随時変更する	○メンバー選定 ○第1回実行支援チーム会 「販路の拡大」へ向けた取組事項の確認 ・「土佐和紙まつり」 ・トリエンナーレ展を活用した販路の拡大 ・ターゲットを絞った営業の展開 ・地産地消 ・土佐楮原料生産実態調査	計画に基づき実行			
6月	○第2回実行支援チーム会 ・土佐楮原料生産実態調査の中間報告 ・トリエンナーレ展に関連し実施する事項の玉出し ・紙漉体験の希望調査(卒業証書)についての検討 ・「高知県産業振興推進総合支援事業補助金」の活用可否についても話し合う ・その他	○トリエンナーレ展実行委員会開催後とする(トリエンナーレ展本体の方向性を確認する) ○各事業実施主体及び地元負担の調整	○トリエンナーレ展準備委員会				
7月	○「緊急雇用創出基金事業」を活用し、ニーズのある和紙の開発等の開始						
8月	○第3回実行支援チーム会 ・第2回実行支援チーム会内容を受け、個々の実施状況を確認、及び積み残し課題の協議 ・紙漉体験の希望調査報告(卒業証書) ・「高知県産業振興推進総合支援事業補助金」の活用検討			○第2回実行支援チーム会 ○トリエンナーレ展実行委員会(予定)	「トリエンナーレ展を活用した販路の拡大」について、トリエンナーレ展幹事会の中で検討することについて確認		
9月							

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月		○第4回実行支援チーム会 ・第3回実行支援チーム会内容を受け、個々の実施状況を確認、及び積み残し課題の協議 ・「高知県産業振興推進総合支援事業補助金」の活用検討を含め平成22年度事業計画の策定 *トリエンナーレ展募集要項発送 ○紙俵での「職人と消費者の商談会」実施	○消費者(事業者)の募集				
11月							
12月		○第5回実行支援チーム会 ・第4回実行支援チーム会内容を受け、個々の実施状況を確認、及び積み残し課題の協議					
1月							
2月		○第6回実行支援チーム会 ・第5回実行支援チーム会内容を受け、個々の実施状況を確認、及び積み残し課題の協議					
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	○トリエンナーレ準備会を開催し、実施へ向けた体制づくりを検討。(実行委員会・幹事会を設置する) ○手すき和紙職人など和紙に関わる方で構成される「土佐の山・紙資源の会」が、紙の可能性について表現する方法や販路開拓の研究を行うために「高知県産業振興アドバイザー制度」による外部講師の派遣を申請中。	I 「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	○「トリエンナーレ展を活用した販路の拡大」について、トリエンナーレ展幹事会の中で検討をすすめる	II 「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<土佐市>		項目	20. 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興			実行支援チーム長	
事業概要	土佐市の「高岡日曜市」の臨時拡大版を開催し、高岡商店街で楽しめるスペースをつくることによって来街者の増加を図り、地域の商業の振興につなげる。				事業主体	・土佐市商工会 ・土佐市 ・実行委員会 など		
主な内容	◆高岡商店街への来街者を増加させる仕組みづくり		地域AP掲載ページ	112~113	指標	目標値 (H23)	氏名(連絡先)	堀内 (9679)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月				4/24 支援チームメンバーでの協議			
5月	・検討会の開催	・実施場所(範囲)、内容、実施方法の検討					
6月	・日曜市組合との協議 ・県警、地元事業者等との協議・協力依頼 ・地元自治会等への協力依頼		・土佐市商工会、土佐市街路市販売組合を中心とした実施団体(高岡商店街活性化協議会)の立上と協議	・実施内容について、今後、県警、地元事業者と協議していく必要がある。			
7月	・日曜市と同時に開催するイベントの準備(出演者への出演交渉等)		・実施場所周辺住民等への事業案の説明と協力依頼 ・実施場所・実施方法の再検討	・周辺住民、地権者等に事業案を説明した結果、実施方法、実施場所の変更をすることになった。			
8月	・広報 ・事業準備		・高岡商店街活性化協議会での全体協議 ・現在の状況 ・実施方法・実施場所の見直し	・事業計画案を見直し、周辺住民、地権者等の協力が得られるものに変更した。			
9月	↑ ↓ ・高岡日曜市拡大版の実施		・関係機関との協議、許可申請 ・出店者の募集 ・事業準備	・関係機関と詳細について協議していく必要がある。 ・事業の魅力アップ、商店街のにぎわいづくりのため、多くの出店者を集める必要がある。	(9月は実施しない。10月に実施。)		

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	↑ ・高岡日曜市拡大版の実施 ↓						
11月		・実施結果の振り返りと次回実施方法の検討					
12月							
1月							
2月							
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	日曜市拡大版を行うにあたっての課題を抽出し、関係者との協議を開始。また、企画運営を行う組織について協議を行い、6月中に立ち上げが行われる。組織には事業者とともに地元自治会関係者も参加することになっており、時期・回数など具体的な協議に入り、秋の試験的実施に向けて内容を詰めていく。	I 「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	実施団体と協議。今後、実施方法等について細部を協議していく必要がある。	II 「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<仁淀川町>		項目	21 榊フードプランの地域商社化への取組			実行支援チーム長			
事業概要	仁淀川町における、地域の商社として榊フードプランを位置付け、一次産品を活用した商品づくりを進め、雇用の確保や農家所得の向上につなげる。				事業主体	仁淀川町 榊フードプラン				
主な内容	1 カット野菜事業の主力商品づくり 2 新商品の開発		地域AP 掲載ページ	112	指標	榊フードプランの販売額 (H19.10~20.9 2.3億円)	目標値 (H23)	2.6億円 (H22.10~ 23.9)	氏名(連絡先)	中川 雅人 (823-9720)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(O)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等	
4月							
5月							
6月	・予算措置(6月補正)	・事業期間等との関係上、早期契約及び早期着手が必要。	・高知県産業振興推進総合支援事業不採択 ・予算措置(6月補正)	・事業計画策定上の留意事項 ・事業の地域への波及効果の検証。 ・経営状態の改善を示すために、損益計算書(各イベント概要を記載した金融機関借入金推移添付)を作成。 ・事業計画の見直し。(補助対象外事業の検討)			
7月	・実施設計委託入札、契約 ・実施設計						
8月	・実施設計完成、納品		・高知県産業振興推進総合支援事業採択				
9月	・本体事業入札、契約		・予算措置(9月補正)		・産振補助金交付申請 ・指令前着手届		

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月					・実施設計委託入札・契約		
11月					・実施設計 ↓		
12月					・実施設計完成、納品		
1月					・本体事業入札、契約		
2月							
3月	↓ ・事業完了、検査					↓ ・事業完了、検査	

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	△	・不採択となった産業振興推進総合支援事業補助金の再申請の検討及び事業計画の見直し。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	△	・補助事業への再チャレンジに時間を要したことにより、町の予算措置が9月補正となるため、事業の着手が遅延している。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<佐川町>		項目	22. 売れる商品づくりによる地産外商の推進(1/1)		
事業概要	佐川町において、地元酒造会社の商品の販売の促進や、一次産品を使った特徴のある商品づくりにより、地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。				事業主体	佐川町、地元酒造会社、JAコスモス、土佐学協会など
主な内容	◆地元産品による売れる商品づくり	地域AP掲載ページ	112	指標		目標値(H23)

実行支援チーム長	
所属	工業振興課
氏名(連絡先)	中川 雅人 (823-9720)

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(O)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	<p>売れる商品づくりによる地産外商の推進</p> <p>・メンバー選定</p> <p>・第1回さかわ地産地消推進協議会開催</p> <p>商品づくりのための農産物(一次産品)の洗い出し</p> <p>各メンバーで目的や趣旨、本年度計画等の確認</p>	<p>記載時期:年度当初</p> <p>記載内容:実施計画</p> <p>※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する</p>	<p>記載時期:年度当初</p> <p>記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等</p> <p>※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する</p>	<p>記載時期:四半期毎</p> <p>記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)</p>	<p>記載時期:四半期毎</p> <p>記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果</p>	<p>記載時期:四半期毎</p> <p>記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画</p>	<p>記載時期:変更計画の策定後</p> <p>記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等</p>
5月							
6月							
7月							
8月							
9月	<p>一次産品のとりまとめ</p> <p>・第2回さかわ地産地消推進協議会開催</p> <p>取り組む特徴のある商品の洗い出し</p>	<p>・取組みメンバーの選定</p> <p>・既存組織地産地消推進協議会との連携協議</p> <p>・メンバーの目的、協働等の意識付け</p> <p>・メンバーの意見の引き出し</p>	<p>【企画本舗さかわ屋】</p> <p>・商工会の組織である企画本舗さかわ屋の定例会において地乳と地梨を使った商品作りの検討を開始</p> <p>【企画本舗さかわ屋】</p> <p>企画本舗さかわ屋では高知県産業振興アドバイザーの検討</p> <p>【企画本舗さかわ屋】</p> <p>高知県産業振興アドバイザーの申請、決定</p> <p>【企画本舗さかわ屋】</p> <p>・高知県産業振興アドバイザーとの事前打合せ、日程調整</p> <p>・高知県加工食品パッケージデザイン支援事業の申請検討、ヒアリング</p> <p>【企画本舗さかわ屋】</p> <p>・第1回産業振興アドバイザーの指導・助言</p> <p>【企画本舗さかわ屋】</p> <p>・第2回産業振興アドバイザーの指導・助言</p>	<p>・商工会として、1次産品(農産物)をつかった商品開発・改良の実施していくために、商品の絞り込みが必要である。</p> <p>・佐川町の一次産品を使った特徴のある加工品を作成するにあたり、どれをどのようにしていくかの検討が必要である。</p> <p>・佐川町で現在販売している地元産品を原料とした加工品販売促進のパッケージデザインを変更することとしているが、その製品の今後の販路や量の確保等の課題がある。</p>	<p>【企画本舗さかわ屋】</p> <p>・第1回産業振興アドバイザーの指導・助言</p> <p>【企画本舗さかわ屋】</p> <p>・第2回産業振興アドバイザーの指導・助言</p> <p>【企画本舗さかわ屋】</p> <p>・第3回産業振興アドバイザーの指導・助言</p>	<p>・地元乳業者が学校給食に提供している地産生乳の夏休み等の長期休み中の牛乳について加工品への活用</p> <p>・新たな素材(1次産品)の掘り起こしによる新たな加工品の検討</p> <p>・商品化に向けた素材の決定、加工品の検討</p> <p>各メンバーで目的や趣旨、本年度計画等の確認</p> <p>商品開発の具体計画の検討</p>	

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	取り組める商品のとりまとめ					【企画本舗さかわ屋】 ・商品化に向けた商品の試作、パッケージの検討等の実施	・商品開発の具体計画の検討
11月	・第3回さかわ地産地消推進協議会開催 地域特産品づくりの検討	・商品化の可能性の検討 ・事業主体となれる、企業や団体や参画団体の掘り起し ・生産者との連携の検討 ・設備投資の必要性の検討					・実施販売に向けた取り組み ・事業主体となれる、企業や団体や参画団体の掘り起し ・生産者との連携の検討 ・設備投資の必要性の検討
12月						【地産地消協議会】 ・第2回さかわ地産地消推進協議会開催 地域特産品づくりの検討	・商品化の可能性の検討 ・生産者との連携の検討
1月	地域特産品づくりとりまとめ						
2月	・第4回さかわ地産地消推進協議会開催 商品化としての組織づくりの検討 地元企業との連携への検討 来期の計画の検討、産業として成り立つか検討	・費用対効果の検討 ・実践についての最終調整、各関係機関の意見集約 ・産業としての可能性の検討 ・予算検討				【地産地消協議会】 ・第3回さかわ地産地消推進協議会開催 商品化としての組織づくりの検討 地元企業との連携への検討 来期の計画の検討、産業として成り立つか検討	・実践についての最終調整、各関係機関の意見集約 ・産業としての可能性の検討 ・予算検討
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	△	関係者間のコンセンサスの形成及び具体的な取り組み内容の検討に時間を要し、計画の見直しが必要	I 「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II 「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	△	マーケティングや販路など、産業振興アドバイザーとの協議に時間を要し、遅延している。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<佐川町>	項目	23. 水熱を利用した事業の展開による新産業の創出 《佐川町》				実行支援チーム長		
事業概要	佐川町において、廃棄資源等を有効活用するための研究や大阪大学大学院との共同調査等を通じて、新製品の開発を行い、新たな地場産業の創出につなげる。			事業主体	佐川町			所属	新産業推進課
主な内容	◆水熱を利用した事業の展開		地域AP 掲載ページ	112	指標	目標値 (H23)		氏名(連絡先)	岡村 雅司 (088-823-9750)

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月							
5月	・バイオマスの成分分析 ・焼却灰の成分分析	【全体】 ・有害物質の抽出法 ・無害化の検討 ・研究、実験の資金等の問題 ・商品化に向けた基礎研究 ・商品化のためのコストの検討	・バイオマスの炭素化及び成分抽出				
6月	・効果的な実験方法の開発		・効果的な実験方法の開発 ・焼却灰の成分分析 ・焼却灰の固化				
7月	・水熱反応による抽出単離 } 分析 ・炭素化生成物		・町内の竹資源調査の実施 ・水熱反応による竹の利用研究 ・水熱反応による抽出分析 ・炭素化生成物分析				
8月							
9月							

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月							
11月							
12月							
1月	防カビ実験 吸着実験						
2月							
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	本年度は大阪大学大学院との共同研究・調査等が中心であり、概ね計画どおり進捗している。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	共同研究・調査等について概ね計画通り進捗している。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<越知町>	項目	24. JRバス越知駅跡地を活用した中心市街地の活性化
事業概要	JRバス越知駅跡地の整備等による多面的な活用によって、越知町の中心市街地の活性化を図り、外貨の獲得につなげる。		
主な内容	◆JRバス越知駅跡地の多面的な活用	地域AP掲載ページ	114
事業主体	・JR越知駅跡地活用検討委員会 ・越知町 ・実行委員会 など	指標	整備後の施設での販売額
目標値(H23)	6,000万円		

実行支援チーム長	
所属	経営支援課
氏名(連絡先)	岡崎 康明 (088-823-9698)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	<p>記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する</p> <p>JRバス越知駅跡地を活用した中心市街地の活性化</p> <p>※表示の意味【建】:施設の整備に関するもの 【運】:施設の運営に関するもの</p> <p>・計画策定経過打合せと実行支援チームメンバー選定</p>	<p>記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する</p> <p>・チームメンバーの役割の共有(事業主体メンバーのサポートなど) ・JR越知駅跡地活用実行委員会(運営委員会)メンバー</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)</p> <p>4月24日(越知町役場)計画策定経過の打合せとチームメンバーの選定 昨年度の検討委員会以降に町が各団体と協議して、事業主体メンバーとして実行委員会メンバーを選定</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:SWIの視点で実施後の分析、検証結果</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画</p>	<p>記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等</p>	
5月	<p>・【建・運】第1回JR越知駅跡地活用実行委員会(立上げ式)全体会の後、各部会ごとに打合せ</p> <p>・【建】施設実施設計監理委託(4月臨時議会で議決済み)</p> <p>・【建】産振総合補助金の準備(宝くじ助成金の残額分)</p>	<p>・施設の機能の確認・共有、委員会の使命及び今後のスケジュールの確認・共有 ・委員会の内容について毎回広報(町広報、HP等)</p> <p>・委託先と施設計画部会の協働の意識付け</p> <p>・審査会に必要な書類の確認 ・運営及び物販部会による施設運営と経営に関する検討(人員体制、収支計画、経済波及効果試算など)が必要、外部アドバイザーの活用も、6月末をめどに準備 ・不採択の場合でも、町費で対応予定</p>	<p>5月18日 第1回JR越知駅跡地活用実行委員会開催(理事會+運営委員会の体制は、施設オープンに向けて固めていく。当会は、実行委員会として設立し、早期に検討が必要な運営部会及び施設計画部会で、情報発信や物販、収支計画等の運営に関する事と、施設整備に関する事に集中して詰めていく予定)</p>	<p>・施設機能、スケジュール等について、具体的な計画は、昨年の検討委員会の中で一定作成されており、設計委託等へは対応可能と考える。 ・実行委員会を関係団体の代表者等で設立し、運営部会、施設部会、運営に関する事、情報発信や物販等に関する事を検討していくこととしており、順調に進むと思われるが、実際に運営に携わる方の施設機能についての詳細な計画、具体的な運営手法等に対する意見等を聞かないまま、設計に入ることによって、開設した施設の利便性や使い勝手に不具合がでないかが懸念される。</p>			
6月	<p>・【建・運】第2回JR越知駅跡地活用実行委員会</p> <p>・産振総合補助金実施計画書提出</p>	<p>・経営の中心となる人材の早期確保 ・施設の名物づくり(食、働くお母さんや高齢者向けの半製品シリーズ、農家レストラン、スイーツ等) ・施設の特徴づくり(交流体験型観光情報の発信等)</p> <p>・施設整備事業費の積算・見積りと資金計画 ・施設経営関係資料(収支計画、経済波及効果等)の作成</p>	<p>6月3日 設計管理の入札及び委託契約</p> <p>6月9日 第2回JR越知駅跡地活用実行委員会開催 1. 設計管理入札結果((有)森田設計が落札) 2. 実施設計(設計図面での協議) 3. 現状での収支計画等の説明 ・施設整備事業費については、建物の利用形態、設計等が固まらないと決められず、次回(第3回)での決定事項に</p> <p>6月26日 第3回JR越知駅跡地活用実行委員会開催 1. 実施設計協議(基本とする図面決定) 2. 運営組織について 理想としては、いろんな機関が連携して、新たな一つの運営組織として検討してきたが、現実的には、観光協会に運営の母体となってもらい、物販についてはJA越知産市が主体となって行っていく(観光協会の組織としての了解が必要) イベントは関係組織と連携しながら実施する</p>	<p>・設計管理者が決まり、具体的な平面図等の提出をもとに実行委員会での協議が行われ、実際の利用計画、必要なスペース、具体的な要望を加味した、設計の見直しが行われ、一定の理解が得られ、設計が固まった。 ・理想論として出していた、新たな一つの組織には至らなかったが、運営母体を観光協会に担ってもらい、JA越知産市が物販を行うことやその手数料等の件も一定協議されてきており、具体的な運営の見通しが立ってきた。また、関係組織との連携によりイベント収入を得る。</p>			
7月	<p>・【建・運】第3回JR越知駅跡地活用実行委員会</p> <p>・産振総合補助金審査会</p>		<p>7月15日運営部会(役場、JA、観光協会、支援員) ・手数料の配分など、人件費等の具体的な費用負担について検討 ・店員の研修や、テイクアウト商品、加工グループが必要</p> <p>7月23日第4回JR越知駅跡地活用実行委員会開催 1. まちの駅の運営体制について ・観光協会が母体となり、協会の中に関係団体による「まちの駅実行委員会」を設置して協議・7/13観光協会の理事會で採決 2. 会計について 一元化が理想だが、現時点では、観光協会、産市部会等の個別に対応。 3. 設備の詳細部分確認 ・物販スペースについては、産市部会等で、観光協会スペースはレイアウトを協会で。 4. 備品等の確認(町の備品として購入)</p> <p>7月27日 産振総合補助事業の産業振興官、総括との打合わせ(越知町役場武智、支援員小野田対応)</p> <p>8月4日 産振総合補助事業の産業振興官、総括との追加打合わせ(越知町役場武智、支援員小野田対応)</p>	<p>・観光協会の理事會で、観光協会が運営母体となること了承され、事業実施主体及び連携して物販を行う産市等の役割も明確になってきている。 結果として、建物の設計や事業運営にかかる協議に事業実施に関わる人たちが参加できており、次年度の事業実施に向けた体制の整備、事業内容等について、成果のある協議となったと思われる。 今後も実行委員会での協議を継続し、事業実施に向けた前向きな協議が必要と考える。 ・実行委員会も予定通り開催され(1回多い)、建物建設に向け、順調に進んできている。 ・越知町役場がどのような形で指定管理者との協定を結び、どの部分に費用負担を行うか等の詳細内容は未定。</p>			
8月	<p>・【建・運】第4回JR越知駅跡地活用実行委員会</p> <p>・【建】施設実施設計完成 ・近隣住民への説明</p>		<p>8月5日 運営部会(役場、JA、観光協会、支援員) ・手数料配分の検討 【野菜】17%(2%JA、2%産市部会、13%観光協会) 【魚】10%(2%産市部会、8%観光協会) ・3月に売り子の育成、営業日(月曜定休日)</p> <p>8月19日 産振総合補助金の第7回審査会</p> <p>8月26日第5回JR越知駅跡地活用実行委員会開催</p>	<p>・審査会で採択され、正式な通知を受けた後、速やかに交付申請を行う。工期を少しでも長く取るため、合わせて指令前着工届を提出する。竣工時期が遅れた場合の対応の検討(竣工予定が2月末だが少し伸びることは可能か?)</p>			
9月	<p>・【建・運】第5回JR越知駅跡地活用実行委員会</p> <p>・【建】施設整備着工</p>	<p>・実施設計書をもとに、施設内レイアウトの検討</p>					

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
10月	・【建・運】第6回JR越知駅跡地活用実行委員会 記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	・平成22年度(オープン後)年間イベントスケジュールの検討 ・必要な予算を確保できる事業等の検討		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
11月	・【建・運】第7回JR越知駅跡地活用実行委員会						
12月	・【建・運】第8回JR越知駅跡地活用実行委員会						
1月	・【建・運】第9回JR越知駅跡地活用実行委員会 ・【運】施設オープン準備 広報ツールの作成、オープン記念イベント企画	・オープンセレモニー、オープン記念ファーマーズマーケットなど ・越知町商店街に人を誘導できるイベントの企画(スタンプラリー、記念協賛セールなど) ・広報ツールは外注も検討 ・施設オープンと同時にHPも開設できるようにコンテンツの準備など					
2月	・【建・運】第10回JR越知駅跡地活用実行委員会 ・【建】施設整備竣工 施設内装飾、ポスター・ポップ表示等						
3月	・【運】施設運営協議会(仮称)設立(運営母体) 施設プレオープン(近隣住民・町民向けの施設案内)	・施設利用者の声を活かし運営方法やレイアウト等を改善していく ・運営体制、産直販売体制、商品開発体制の強化 ・病院との連携(患者バスの運行、待合時間の利用等) ・地域コーディネート組織を目指す					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	昨年の検討委員会で検討されたスケジュールに沿った実行委員会の立ち上げ、施設整備のための準備作業は一定進んでおり、来年のオープンに向けたスタートは行えた。事業者体となる方の選定や、運営のための部会の設立、役場における施設運営へのかかわり方などの一部の具体的な項目について、今後検討を早期に行う必要を感じる。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	建物建設にかかる設計に必要な利用計画や事業内容等について実行委員会での協議を重ねることにより固まってきた。その中で、実施主体についても当初の理想とする形とは異なるが、観光協会を運営の母体として、関係機関が協力して運営に携わる形が見えてきつつある。今後も運営部会での詳細な運営形態の協議を踏まえ、実行委員会での検討を継続していく必要がある。施設オープンの時期から逆算していった際の建設工事への着工のタイミングを十分に見極めることも必要。(産業振興推進総合支援事業費補助金の採択後の早期着工)	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域アクションプラン進捗管理シート

作成日: 平成21年8月26日

地域	仁淀川<<日高村>	項目	25 企業進出による雇用の増と地元企業の活性化
事業概要	既存企業の訪問(アフターケア)の充実や遊休施設等の活用などによる企業誘致の取組を進め、地域の産業の振興につなげる。		事業主体 ・日高村 ・食品会社
主な内容	既存企業の活性化と新規進出企業の誘致	地域AP掲載ページ	114 指標 目標値(H23)

実行支援チーム長	
所属	*調整中
氏名(連絡先)	()

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)			
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題		
4月	●日高村による企業誘致等における研究会の立ち上げ ●日高村による村内既存立地企業の訪問(通年)	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等		
5月								・現状、研究会で何をやるのか具体的な活動計画がない。 ・立ち上げることが目的化した単なる組織となることを懸念。 ・現在、県は、平成19年8月に設立した「高知県地域産業活性化協議会(構成員:県下全34市町村や大学等)」により、市町村等と連携した企業誘致活動やアフターケアを展開中。 ・日高村が主催で行う研究会等については、従来どおり要請に応じて対応する。	・日高村役場内プロジェクトチーム立ち上げ
6月								・日高村工業団地(沖名・清水)の立地企業を重点とし、村担当職員とルーチンである企業訪問活動を実施 ・役場内ワーキングによる既存立地企業の訪問実施	・日高村工業団地(沖名・清水)の立地企業を重点とし、村担当職員とルーチンである企業訪問活動を実施 ・役場内ワーキングによる既存立地企業の訪問実施
7月	●第2回研究会開催(予定)	(空欄)	(空欄)	・役場内プロジェクト会議 ・役場内ワーキングによる既存立地企業の訪問実施	(空欄)	(空欄)	(空欄)		
8月				・役場と食品会社の製造設備増設に関する協議				・食品会社の設備投資計画をアクションプランに位置付け(予定) ・役場内ワーキングによる既存立地企業の訪問(予定) ・第4回 役場内プロジェクト会議	
9月				(空欄)				(空欄)	

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等	
10月							
11月						●食品会社の計画を採択申請(産振補助金審査会)	
12月						●第5回 役場内プロジェクト会議 ●食品会社 事業着手	
1月							
2月						●第6回 プロジェクト会議	
3月						●食品会社 事業完了	

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	役場内にプロジェクトチームも立ち上がり、地域内の既存立地企業等の状況把握する体制もできた。ルーチンである企業訪問活動により、業況確認や採用状況など聴取。今後も継続した企業訪問を実施する。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	実施計画どおり企業訪問活動等を実施できた。具体的動きとして村内企業の食品会社の設備投資の計画が出てきたことから産振補助金申請への支援を行う。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<土佐市>		項目	26 体験型観光・食観光の推進		
事業概要	土佐市において、地域資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わせることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。				事業主体	・土佐市 ・土佐市商工会など
主な内容	体験型観光及び食観光の推進	地域AP掲載ページ	114	指標	公共関連宿泊施設での宿泊者数(H19 52,156人)	目標値(H23) 60,000人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	溝淵 泰正 (823-9606)

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	■地域づくり支援事業申請 ・USA観光拠点化施設等整備事業 ・ジョン万次郎スタディ&風土(フード)カタログ作成事業		■地域づくり支援事業申請 ・USA観光拠点化施設等整備事業 ・ジョン万次郎スタディ&風土(フード)カタログ作成事業		/	/	/
5月	○第1回チーム会議(現状の確認と今後の進め方について)		■観光資源となる新たな取組みの開拓 ・公共施設の活用についての協議 ・地域の新たなアイデアについての聞き取り実施				
6月	■観光資源となる新たな取組みの開拓 ・観光会社や地元組織と協議	・仁淀川広域の観光化を進めていくための専門の人員・組織が無い(今までもデータ集積と広報で終始している)	■仁淀川広域ふるさと市町村圏事業「広域観光推進」に向けた打合せ(6月22日) ■地域力創造アドバイザー事業採択決定 ■第1回土佐市スーパー日曜市プロジェクトチーム会(仮称)の開催(6月26日)	・観光に関する広域データの集積については、一定方向付けをした後、具体的作業に入ることとなった。 ・一方、広域の観光情報をプロデュースし、商品としていく機能を持つ組織がない現状についての認識は共有するが、具体的解決方向については継続して協議となる。 ・地域力創造アドバイザー事業を導入し、宇佐地区を中心とした、うるめのほか地域色豊かな食観光の具体化の動きが始まり、今年度中に一定の成果を目指す。			
7月	■仁淀川流域観光に向けた関係市町村資源データづくり ・土佐市、いの、日高の仁淀川広域市町村圏事務組合で打合せ及び現在の観光資源データのとりまとめ。(仁淀川広域ふるさと市町村圏事業 広域観光推進事業) ■ホエールウォッチング・うるめを軸にした宇佐観光メニューの検討開始 ・地域力創造アドバイザー事業の導入(申請中) ■ジョン万次郎スタディ&風土(フード)カタログ作成事業、しおかぜ公園くじらオブジェライトアップ事業開始(予定)		■仁淀川広域ふるさと市町村圏事業「広域観光推進」に向けた打合せ(7月7日) ■高知市内宿泊施設と土佐市内観光ルートについて協議 ■仁淀川広域ふるさと市町村圏事業「広域観光推進」に向けた打合せ(7月24日)		/	/	/
8月	○第2回チーム会議(土佐市の地域資源活用と仁淀川広域の連携 における役割について検討)		■ジョン万次郎スタディ&風土カタログ補助金交付申請 ■仁淀川広域ふるさと市町村圏事業「広域観光推進」に向けた打合せ(8月19日)	・各市町村担当者が観光データの集積に向けた取り組みを進めており専門家からの評価を受けながらまとめていく作業に入った。実際に誘客につながるものにしていくためには、各事例のブラッシュアップが必要となっている。			
9月	■うるめブランド化、高岡日曜市の拡大開催など他事業の進捗の確認と観光部門への活用方法の調整						

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SW1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月							
11月							
12月	○第3回チーム会議(各事業進捗状況から具体的方向性の検討)						
1月							
2月	○第4回チーム会議(今年度の取りまとめ及び次年度の事業計画)						
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	広域観光推進に向けた打合せや、地域力創造アドバイザーの導入など、それぞれのパーツが動き出せる準備ができ、7月から実際に地域資源を活用したメニュー・商品づくりを進めていく。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	観光メニュー・商品づくりの実践に入った状況。各項目のブラッシュアップ及び各項目をつなげての商品づくりを進めていく。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川流域(いの町)		項目	27 体験型観光メニューづくり (28 「仁淀川」での遊覧船(屋形船)の運航)			実行支援チーム長		
事業概要	いの町において、地理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組み、体験型観光を推進する。 (全国的な知名度が低い「仁淀川」を総合的に売り出すため、近畿・関東地方の旅行業関係者の関心が高い、遊覧船(屋形船)の運航に向けた取組を進める。)				事業主体	いの町観光協会 いの町産業経済課			
主な内容	◆体験型観光推進のためのメニューづくり (◆遊覧船(屋形船)の運航の実現に向けた取組)		地域AP掲載ページ	114	指標	公共関連施設等での宿泊者数(H19 52,156人)	目標値(H23)	60,000人	所属: 観光政策課 氏名(連絡先) 溝淵 泰正 (823-9606)

月	内容	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題		
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画				
4月	・メンバー選定 ・「いの町体験型観光メニュー」委託業務仕様書の作成	H20地域アクションプラン検討ワーキンググループ(商工観光分野)参加者を基本とし、必要に応じて随時変更する 専門企業より「ノウハウや資料を基に指導、助言、支援」を受けることができるよう委託業務を発注するべく、仕様書づくりをおこなう(町産業経済課)	・メンバー選定 ・「いの町体験型観光メニュー」委託業務仕様書の作成	計画に基づき実行	/				
5月	・商工観光連絡会 ・「体験型観光メニュー整理票」作成を確認	参加予定:町産業経済課・商工会・観光協会・地域支援企画員 「体験型観光メニュー」玉出し作業の実施 「整理票のたたき台」作成担当者の確認	・商工観光連絡会 ・「体験型観光メニュー整理票」作成を確認 ・高知県観光産業振興事業実施計画書 申請	計画に基づき実行 7月の「いの町体験型観光メニュー」委託業務発注に備え、高知県観光産業振興事業費補助金を申請					
6月	・商工観光連絡会 ・「体験型観光メニュー整理票」内容の確認	参加予定:町産業経済課・商工会・観光協会・地域支援企画員 「整理票のたたき台」より追記・修正事項の確認	・商工観光連絡会 ・「体験型観光メニュー整理票」内容の確認	計画に基づき実行 「体験型観光メニュー整理票」の更なる整備が必要					
7月	・「いの町体験型観光メニュー」委託業務の発注 ・「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラムの開発」実行委員会メンバー選定	町産業経済課発注 実行委員会メンバー(予定) 観光に関わる町民、観光協会、町産業経済課職員	・商工観光連絡会 ・「体験型観光メニュー整理票」内容の確認 ・いの町より申請中の「高知県観光産業振興事業実施計画」ヒアリング(観光政策課)	観光メニュー策定にあたり、内部検討ばかりではなく、外部より専門アドバイザーを招へいし、第3者としての意見を取り入れる必要性について観光政策課より指摘。アドバイザーを招へいするよう計画を修正。					
8月	・第1回「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラムの開発」実行委員会 ・「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラム」素案の提示	「体験型観光メニュー整理票」を基に、「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラム」として纏める *「仁淀川等を遊覧船(屋形船)で遊覧体験」の実施にかかる課題についても提示する	・商工観光連絡会 ・「体験型観光メニュー整理票」内容の確認 ・いの町より申請中の「高知県観光産業振興事業実施計画」事業採択予定						
9月	・第2回「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラムの開発」実行委員会 ・「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラム」案の検討 ・体験観光プログラムモニターツアーの実施時期やメニューの調整	体験観光プログラム実施にかかる、担当部署と役割の確認。 実施にかかる課題解決へ向けた支援(以降継続事業、関係者にて別途検討を進める) モニターツアー参加者(予定)	・商工観光連絡会 ・「体験型観光メニュー整理票」内容の確認 ・「いの町体験型観光メニュー」委託業務の発注予定						

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	第3回「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラムの開発」実行委員会 「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラム」の確定 モニターツアーの人選・実施日時の確定	実施可能なものから、順次確定する					
11月	モニターツアーの実施	ツアー参加者に対し、ツアーの実効性や効果、感想などをヒアリング					
12月	第4回「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラムの開発」実行委員会 モニターツアーの実施状況報告 「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラム」の修正 観光パンフレット案の検討	参加者ヒアリング内容等 モニターツアー実施を受け、修正すべき事項を確認する。 「いの町資源を生かした新しい体験観光プログラム」を織り交ぜ、いの町を訪れたいくなるような観光パンフレットとする					
1月	第5回「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラムの開発」実行委員会 「いの町の資源を生かした新しい体験観光プログラム」の最終確認 観光パンフレットの最終確認	配布場所および配布担当部署の確認					
2月	観光パンフレットの配布 仁淀川流域での情報の一元化に向けた検討会の開催						
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	○商工会・観光協会・いの町(産業経済課)により町内で実施できる体験型観光の情報を収集し、「体験型観光メニュー整理票」として整理を進めた。 ○体験型観光ツアー等の案を検討することを目的として、現在高知県観光産業振興事業費補助金の補助申請中。 ○今後も「体験型観光メニュー整理票」として整理を進めるため、町内で実施できる体験型観光の情報収集を更に進める。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	○	○高知県観光産業振興事業費補助金の補助決定予定。 ○「体験型観光メニュー整理票」により把握した個別メニューをもとに、いの町全体を売り出す方法についてアドバイザーを交えて検討を進める	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川地域	項目	29 「グリーンパークほどの」の多面的な活用 《いの町》				
事業概要	「グリーンパークほどの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。			事業主体	いの町		
主な内容	◆「グリーンパークほどの」の環境学習の場としての活用		地域AP掲載ページ	114	指標	公共関連施設等での宿泊者数 (H19 52,156人)	目標値 (H23) 60,000人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	溝淵 泰正 (823-9606)

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
	内容	実施計画	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月	高知県産業振興推進総合支援事業採択申請書作成・提出		計画に基づき実行		/	/
5月	審査会 採択通知(内示)			仁淀川地域本部との協議により 6月審査会での審査とした		
6月	補助金交付申請 補助金交付決定 ○ 事業計画作成委託業務仕様書等作成 ○ 事業計画作成委託業務募集開始 ○ 先進施設調査実施	○ 同様の構想づくりの経験のある事業所が参加してくれるかどうか	審査会 採択通知(内示)			
7月	○ 事業計画作成委託業務 受託者決定 ○ 事業計画作成委託業務 着手 ・ 現地調査(地形等の調査) ○ 地域住民との意見交換会の開催	○ 他の施設等との差別化				
8月	○ 事業計画作成委託業務 ・ 事業計画策定 (地形等にあった環境学習及び体験項目の例示) (環境学習及び体験項目の整備事業費の算出) (現施設との整合性) 等 ・ 環境先進企業向けの資料作成 ・ 成果報告書の作成	○ 環境先進企業の参加の有無	高知県産業振興推進総合支援事業 交付決定 先進施設調査実施(京都)			
9月			事業計画作成委託業務 受託者決定予定 事業着手予定			

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月							
11月	○ 事業計画作成委託業務 成果物等の提出・受理 ○ 地域住民との意見交換会の開催						
12月	○ 先進施設調査 ○ 環境先進企業PR活動開始	○ 環境先進企業の参加の有無					
1月							
2月							
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	仁淀川地域本部との協議により6月審査会での審査としたため、交付申請が1ヶ月遅延する見込み。委託業務期間を1ヶ月短縮することにより対応予定。	I 「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II 「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	9月には業務発注予定。下半期実施に向け、より具体的な事業計画の作成を進める。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域アクションプラン進捗管理シート

作成日: 平成21年8月26日

地域	仁淀川くいの町	項目	30.「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」を活用した交流人口の拡大				
事業概要	「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」の地理的な条件を活かし、アスリート等を対象にした高地トレーニングや、高地を活用した健康増進メニューの開発を行い、他の観光資源とも組み合わせることにより、体験型観光を推進する。			事業主体	いの町		
主な内容	「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」の多面的な活用		地域AP掲載ページ	116	指標	公共関連宿泊施設での宿泊者数(H19 52,156人)	目標値(H23) 60,000人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	清瀬 泰正 (823-9606)

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	・24日伊野中学と高地トレーニングに向けた打合せ	・陸上部の部員数と実施時期等確認	・4月24日伊野中学と高地トレーニングに向けた打合せ(町、伊野中)				
5月	・高地トレーニング実施要領等打合せ(西条市・東海大学教授・伊野中・町) ・事業申請	・高地トレーニング実践者から実施方法等の研修と実施時の体制等協議 ・実施事業の検討	・5月16日に高地トレーニング実施要領等打合せ(西条市・東海大学教授・伊野中・町)。 ・5月26日高地トレーニング開催時のスタッフ体制、開催時期等協議(町、伊野中)。	・伊野中学陸上部顧問と町が高地トレーニングに向けスタッフ体制や開催時期等について協議し、実施に向けた具体的な取組となっている。			
6月	・実施体制整備に向けた関係機関との協議	・実践者からの指導に基づく検討及び関係機関への協議(町・県関係機関・大学・スポーツ専門家)	・実施に向けて、緊急時の対応等について長沢診療所医師と打ち合わせ。	・関係機関との協議を行い計画どおりの取組みとなっている。			
7月							
8月	・高地トレーニングの実施	・実施スタッフの配置	・トレーニング実施にあたり、測定項目確認・注意点について、公認スポーツドクターと打ち合わせ(8月19日)。 ・伊野中と実施に向けた打ち合わせ(8月21日)。 ・8月28日～30日の2泊3日で伊野中学陸上部18人が実施。				
9月	・高地トレーニング実施後の打合せ	・高地トレーニング実施後の結果確認と競技参加後の結果確認及び打合せ					

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		第1回高地トレーニングの今後の取り組み検討会 第1回健康増進メニュー開発検討会					
11月							
12月							
1月							
2月		第2回高地トレーニングの今後の取り組み検討会 第2回健康増進メニュー開発検討会					
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	活用策のひとつとして、高地トレーニングの試行に向けた打ち合わせを開催し、実施時期や課題等について検討した。今後は、8月下旬の開催に向けて、詳細な日程作成、スタッフ体制(役割分担)等具体的な計画づくりを進める。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	実施に向け、関係機関と連携し、計画どおりに取り組んでいる。今後は、結果の検証と来年度実施に向けた計画づくりに専門家の意見を聴きながら進める。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域アクションプラン進捗管理シート

作成日: 平成21年8月26日

地域	仁淀川<佐川町>	項目	31. 仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大(1/1)《佐川町、越知町、仁淀川町、日高村、津野町、橋原町》				実行支援チーム長			
事業概要	横倉山から佐川町にかけての貴重な地域資源(地質)を活かし、仁淀川流域を中心に、天狗高原(四国カルスト)も組み合わせて、「世界ジオパーク」の認証に向けた取組を進め、交流人口の拡大につなげる。		事業主体	佐川町				所属	観光政策課	
主な内容	◆「世界ジオパーク」の認証に向けた広域的な取組		地域AP掲載ページ	116	指標	公共関連宿泊施設での宿泊者数(H19 52,156人)	目標値(H23)	60,000人	氏名(連絡先)	溝淵 泰正 (823-9606)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIIRの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月							
5月	<ul style="list-style-type: none"> 第1回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 日高村説明会 第1回平成21年度仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 日高村の地域資源(地質)について説明・取組についての理解、確認 各町村での取組についての説明・今後の取組内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 日高村説明会(5/17) 日高村にある地質、植物、文化遺産を説明し、関係者にジオパークへの取組みへの理解と確認 第1回平成21年度仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会担当課長会(5/25) 現在のジオパークの取組状況、各国のジオパークの状況を説明、地域資源を組み合わせ、魅力ある資源としてアピールすることの重要性を確認 平成21年度事業計画日程の決定 広報、マスメディア等を使ったジオパーク推進取組の周知 第2回平成21年度仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会担当課長会(6/23) 	<ul style="list-style-type: none"> 日高村の関係者等に地域資源(地質、植物、文化)の再確認やジオパーク取組への理解ができてくれる。 各町村で今後の取組、計画日程等の調整等の詳細な決定機関として担当者レベル(課長級)での打合わせ、協議の場を設けることができた。 			
6月							
7月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 津野町打合せ 	<ul style="list-style-type: none"> 津野町の地域資源(地質)についての確認 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回仁淀川・四国カルストジオパーク総会(7/22) 	<ul style="list-style-type: none"> 各首長のジオパークへの理解と認識が確認できたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回仁淀川・四国カルストジオパーク総会(7/22) 	<ul style="list-style-type: none"> 6町村首長出席の総会とする。 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 第2回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 津野町説明会 	<ul style="list-style-type: none"> 津野町の地域資源(地質)について説明・取組についての理解、確認 	<ul style="list-style-type: none"> 室戸市議会議員の視察 認定に向けた計画等のコンサルタントとの打合せ 				
9月	<ul style="list-style-type: none"> 第3回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 越知町打合せ 第2回平成21年度仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 	<ul style="list-style-type: none"> 越知町の地域資源(地質)についての確認 各町村での取組についての説明・今後の取組内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回仁淀川・四国カルストジオパーク越知・津野・橋原・仁淀川説明会打合せ(9/14) 第2回平成21年度仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会担当課長会(9/14) 		<ul style="list-style-type: none"> 第2回仁淀川・四国カルストジオパーク越知・津野・橋原・仁淀川説明会打合せ(9/14) 第2回平成21年度仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会担当課長会(9/14) 	<ul style="list-style-type: none"> 打合会は各地区ではなく合同で実施する。 	

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	・第3回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 越知町説明会 ・第4回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 仁淀川町打合せ	・越知町の地域資源(地質)について説明 ・取組についての理解、確認 ・仁淀川町の地域資源(地質)についての確認				・第3回仁淀川・四国カルストジオパーク越知・津野・橋原・仁淀川説明会打合せ(10/5) ・第3回平成21年度仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会担当者会(10/5) ・第2回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 津野町説明会(10/25)	
11月	・第4回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 仁淀川町説明会 ・第5回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 橋原町打合せ ・第3回平成21年度仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会	・仁淀川町の地域資源(地質)について説明 ・取組についての理解、確認 ・橋原町の地域資源(地質)についての確認 ・各町村での取組についての説明 ・今後の取組内容の確認				・第3回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 仁淀川町説明会(11/8) ・第4回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 越知町説明会(11/29)	
12月	・第5回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 橋原町説明会	・橋原町の地域資源(地質)について説明 ・取組についての理解、確認					
1月						・第4回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 佐川町説明会打合せ(1/26) ・第4回平成21年度仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会担当者会(1/26)	
2月	・第6回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 佐川町打合せ ・第4回平成21年度仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 ・第6回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 佐川町説明会	・佐川町の地域資源(地質)についての確認 ・各町村での取組についての説明 ・今後の取組内容の確認 ・認証に向けた新たな取組についての検討 ・佐川町の地域資源(地質)について説明 ・取組についての理解、確認				・第5回仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会 佐川町説明会(2月下旬)	
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	概ね計画どおり進捗しており、引き続き、実施計画に基づき実行していく。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	担当者レベルで取り組みを協議する体制(担当課長会)を整え、概ね計画どおり進捗している。引き続き、実施計画に基づき実行していく。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川(仁淀川町)	項目	32. 観光情報のコーディネートと情報発信拠点の設置			事業主体	仁淀川町		
事業概要	仁淀川町において、情報発信基地の整備や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。					指標	公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19 52,156人)	目標値 (H23)	60,000人
主な内容	■情報発信基地の整備	■観光情報ネットワークの構築	■おもてなし活動の実施	地域AP掲載ページ	116				

実行支援チーム長	
所属	高知県 観光振興部 観光政策課
氏名(連絡先)	溝淵 泰正 (823-9606)

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
	内容	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHLの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月	<p>■基本理念の確認</p> <p>仁淀川町の観光は、従来の「見る」あるいは「自然体験する」という観光だけでなく、人間の五感で感じることで最大限の魅力を発揮する「五感体験型観光」を目指す取組を進めます。また、地域団体や観光地のクラスター(ブドウなどの「房」の意味でここでは「人の集合体」)化でその具体化を検討、実現を目指す。</p> <p>◎Aプラン: クラスター化モデル事業 地域活動団体と連携して上記理念のもとにモデル事業を実施し、検証する。</p> <p>◎Bプラン: 観光地ブラッシュアップ事業 全般的には観光に関わる地域観光の品質向上のため、ガイド講習や看板類、食事提供の充実を図る。</p>	<p>■仁淀川町の観光へのニーズの把握・確認</p> <p>■五感体験型観光についての認識と整理</p> <p>・新しい価値観である「五感体験型観光」は、十分に受け入れ側の感覚(団体)が認識していないと成功しないし、専門家のアドバイスも必要。</p> <p>・観光客におけるターゲット、五感のねらい、種類などの整理と各専門家との連携、受入サイドへの指導なども必要である。</p>	<p>■4月下旬から5月上旬にかけて、仁淀川町役場との観光に関する基本理念の確認を行った。</p> <p>■観光地ブラッシュアップ事業の推進として、県おもてなし課のガイド養成事業に以下団体から申請を行った。</p> <p>・しもの郷 ガイド養成研修予定: 6/30、9/8、10/16</p> <p>・武田勝頼土佐の会 ガイド養成研修予定: 6/24、7/8、7/19</p> <p>■宝来荘ホームページの充実(宿泊情報)</p>	<p>■五感体験型の観光については、さらに掘り下げて具体的な手法の検討が必要と思われる。</p>		
5月		<p>■観光ガイドの必要性の認識</p> <p>■五感体験型の要素の実践</p>	<p>■6月上旬に上記ガイド養成事業の採択あり。</p> <p>■上記団体は6月24日及び6月30日にガイド養成事業を実施。</p> <p>■県補助である観光施設等緊急魅力向上事業に町内の観光案内版の設計及び整備工事を申請。</p> <p>■温泉施設「ゆの森」の規模拡大工事の発注完了(6月中旬工事開始、9月完了の予定で10月第1週OPEN予定。)</p>	<p>■クラスター化のモデル事業に向けて、関係団体等と日程や内容等について早急に協議を行う必要がある。</p>		
6月	<p>Bプラン: 第1回観光ガイド養成事業の実施 対象団体: しもの郷(予定)</p>					
7月	<p>Bプラン: 観光案内版の修繕の検討～実施 ・地域の資源調査の実施 ・まとまりある観光案内表示の検討</p> <p>Bプラン: 第2回観光ガイド養成事業の実施 対象団体: 武田勝頼土佐の会(予定)</p> <p>Aプラン: クラスター化のモデル観光の検討</p>		<p>■しもの郷ホームページ充実(宿泊情報)7月完成</p> <p>■武田勝頼土佐の会によるガイド養成講座の実施(7月8日、19日)</p>	<p>■「宝来荘」、「しもの郷」のHPは宿泊状況や日々の観光情報もアップできるようになり、充実が図られ、宿泊利用者の利便性等は向上した。</p> <p>■武田勝頼の歴史観光は、ガイド力向上の努力は今後も必要。また、歴史案内看板やガイドブックの充実があれば観光客には分かりやすいものとなる。</p>		
8月	<p>・複数団体とのモデルコースづくり</p> <p>・個々の団体の体験内容の検討</p> <p>・モデル観光の9月実施に向けた準備</p> <p>・広報、その他必要な事項の実施</p>	<p>■地域観光を担う団体との連携</p> <p>■具体的な観光メニューの創設(五感)</p> <p>■モデル観光の情報発信手法</p>	<p>■仁淀川町観光センターホームページの新設(8月準備)</p> <p>■クラスター化モデル観光の企画案に関する打ち合わせ(8月下旬)</p> <p>■木と人交流館「木どり家」(池川遊遊会)の週末喫茶店「きどりや」のOPEN及び新HPの開設。</p>	<p>■仁淀川町観光センターのHPはこれまでなかったが、旧仁淀川の観光情報や旅館、イベントなどとリンクしたHPで、より情報発信力を高めることができる。10月下旬の開設を目指す。</p> <p>■「木どり家」は都市部の観光客が主に利用する木工体験館であるが、町内に観光に来た際に休める喫茶店がないため、週末のみ開店する喫茶店を営業し始めたものである。観光情報も発信しながらイベントも定期的に行う。</p>		
9月	<p>Bプラン: 「ゆの森」の改修工事 (整備開始5月から～9月末(メイン)まで)</p> <p>Aプラン: クラスター化のモデル観光の実施～検討 - 基本理念の具体化、商品化の検証 -</p>		<p>■クラスター化モデル事業の準備及び関係団体等との調整(～9月中旬)</p> <p>■クラスター化モデル観光の実施(9月下旬)</p>	<p>■夏期は比較的に町内の観光団体は宿泊客等の対応等に追われ多忙で、モデル事業の準備や調整などが難しい。モデルプランの実施(9月下旬)は、広報も含めて実施が難しい状況であると思われる。</p>		

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	【モデル観光の実施】 ・1泊2日のモデル観光の実施 ・既存観光施設等での五感体験の検討～実施						
11月	【今後の観光の検討】 ・五感体験型、継続性、経済性の検討 ・観光メニュー商品化への検証～確立 ・観光用の食品メニューの試験導入 ・地域間の連携、情報ネットワークの検討						
12月	・その他必要な事項について検討		■課題の把握と改善方法 ■今後の連携手法(公共交通、地域団体間) ■商品化に向けた収益性の検証、継続性				
1月	「観光情報のコーディネートと情報発信拠点の設置」 へ向けた検討(まとめ) 年間を通じたクラスター形式による五感体験型観光の商品化の確立を目指す。						
2月	・マーケティング調査の実施 ・情報発信拠点の候補地、団体の検討 ・年間スケジュール(当初)の試作、検討 ・スケジュールの修正・追加方法の検討 ・観光コーディネーターの検討、候補者選定 ・全般的な観光メニュー商品化、売り出し方法						
3月	・情報発信の手法の検討 ・その他必要な事項について検討		■次年度の観光拠点の整備の具体化 ・観光情報発信拠点の整備 ・観光コーディネーターの雇用				
	Bプラン:観光案内板の工事開始(順次実施～3月まで)						

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	日程等の調整に多少、ガイド養成は前倒しのスケジュールが確定しているが、そのガイド後の観光メニューの商品化がカギである。また、今後の五感体験型観光のモデル事業に向けて、早急に関係団体等と協議し、内容等について検討を行い、観光客へPRしていく準備等にかからなければならない。モデル性の内容について、十分な検討が必要であるため、専門家等への依頼も必要かと思われる。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △
第2四半期(上半期)	△	町内の各観光団体のブラッシュアップは一定進んだが、クラスター化観光のモデル実施が十分に実施できない。理由として特徴あるニーズに合ったプランが十分に煮詰められず、夏期は関係団体も多忙であり、内容の検討と調整が難しい状況がある。年間を通した総合的なコンセプトと具体的でユニークかつ、ここ仁淀川町でしか味わえないプラン(遊び+食+宿泊+五感+ユニークさ)を検討する必要がある。	II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<佐川町>	項目	33. 歴史的風致維持向上計画の推進(1/1)	事業主体	佐川町	実行支援チーム長			
事業概要	「文教のまち」佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、観光資源としての充実を図る。			地域AP掲載ページ	118	指標	公共関連宿泊施設での宿泊者数(H19 52,156人)	目標値(H23)	60,000人
主な内容	◆一体的な歴史的風致の形成						所属	観光政策課	
							氏名(連絡先)	溝淵 泰正 (823-9606)	

月	内容	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題		
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等			
4月	歴史的風致維持向上計画の推進		景観・歴史的環境形成総合支援事業 ・佐川町歴史的風致維持向上計画年度事業計画調整 ハード事業、ソフト事業の事業計画の調整 【ハード事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)移築・復元・トイレ等設計委託業務 事業主体:佐川町 事業内容:入札・着手						
5月	佐川町歴史的風致維持向上計画年度事業計画調整 ハード事業、ソフト事業の事業計画の調整		・佐川町歴史的風致維持向上計画年度事業計画調整 ハード事業、ソフト事業の事業計画の調整 【ハード事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)移築・復元地土質調査 事業主体:佐川町 事業内容:入札・着手		【ハード事業】 移転工事等については問題なく進んでいる。				
6月	【ソフト事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)活用事業協議 事業主体と町による事業確認、調整 【ソフト事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)活用事業実施(H21) 事業主体:NPO法人佐川くろがねの会 事業内容:パンフレット作成、ホームページ作成 【ハード事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)移築・復元工事 事業主体:佐川町 事業内容:入札予定	佐川文庫庫舎(旧青山文庫)活用についての検討 ・移転先用地協議中(H12年 国庫補助金導入により整備したため)	【ソフト事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)活用事業協議 事業主体と町による事業確認、調整 【ソフト事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)活用事業 国補助申請中 事業主体:NPO法人佐川くろがねの会 事業内容:パンフレット作成、ホームページ作成 【ハード事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)移築・復元工事 事業主体:佐川町 事業内容:入札 佐川文庫庫舎(旧青山文庫)トイレ等新設工事建設確認申請	【ソフト事業】 メニューの内容について国への確認と事業主体との調整が必要である。					
7月	【ハード事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)トイレ等新設工事 事業主体:佐川町 事業内容:入札予定	建築確認申請中	【ハード事業】 佐川文庫庫舎(旧青山文庫)トイレ等新設工事 事業主体:佐川町 事業内容:入札予定 佐川文庫庫舎(旧青山文庫)移築・復元工事 事業主体:佐川町 事業内容:工事着工			【ハード事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)トイレ等新設工事 事業主体:佐川町 事業内容:入札予定佐川文庫庫舎(旧青山文庫)移築・復元工事 事業主体:佐川町 事業内容:工事着工予定	建築確認申請中		
8月	【ソフト事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)活用事業(H21)イベント開催 【ハード事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)移築・復元工事 事業主体:佐川町 事業内容:工事着工予定 佐川文庫庫舎(旧青山文庫)トイレ等新設工事 事業主体:佐川町 事業内容:工事着工予定 小公園整備事業 事業主体:佐川町	広報・普及啓発を町外に発信体制 ・予定地の買い取り	【ハード事業】 佐川文庫庫舎(旧青山文庫)トイレ等新設工事 事業主体:佐川町 事業内容:工事着工 浜口邸整備事業平成22年度事業)用地交渉 【新規事業の検討】 JR客車移設協議・交渉 JRと佐川町活性化事業計画(客車展示活用、佐川文庫庫舎、地場産センターの活用等)についての打合せ	土地の鑑定が終了し、今後の相手方の条件面等で交渉予定 客車搬入方法、搬入移設場所の検討が必要となる					
9月	【ハード事業】小公園整備事業 事業主体:佐川町 事業内容:設計委託	公園活用の検討 ・管理体制の検討	【ソフト事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)活用事業 補助金交付予定 【ハード事業】小公園整備事業 事業主体:佐川町 事業内容:設計委託予定	小公園整備事業用地取得の問題		【ソフト事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)活用事業 補助金交付予定 【ハード事業】小公園整備事業 事業主体:佐川町 事業内容:設計委託予定	予定地買い取り		

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	【ハード事業】小公園整備事業 事業主体:佐川町 事業内容:入札予定						
11月							
12月							
1月	【ソフト事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)活用事業協議 パンフレット、ホームページ掲載について事業主体と町との確認、調整 【ハード事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)移築・復元工事 事業内容:工事完了予定 佐川文庫庫舎(旧青山文庫)トイレ等新設工事 事業内容:工事完了予定 小公園整備事業 事業内容:工事完了予定	施設内レイアウト等の検討、運営管理体制の検討 管理団体等の検討					
2月							
3月	【ソフト事業】佐川文庫庫舎(旧青山文庫)活用事業完了(H21) パンフレット、ホームページ作成完了	佐川文庫庫舎(旧青山文庫)の運営体制の強化 管理組織(団体)の検討 その他整備施設の活用 広報活動、情報発信強化					

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	概ね計画どおり進捗しており、引き続き、実施計画に基づき実行していく。	I「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	ハード事業・ソフト事業ともに概ね計画どおり進捗しており、引き続き、実施計画に基づき実行していく。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<越知町>		項目	34. 地域資源を活用した交流・体験型観光の体制及びメニューづくり			実行支援チーム長				
事業概要	越知町において、交流・体験型観光を推進するための体制の整備と、地域の様々な素材を組み合わせたメニューづくりに取り組み、観光による外貨の獲得につなげる。				事業主体	JR越知駅跡地活用検討委員会 越知町観光協会 越知町 など		所属	観光政策課		
主な内容	◆交流・体験型観光の推進のための仕組みづくり			地域AP掲載ページ	118	指標	公共関連宿泊施設での宿泊者数 〔再掲〕 (H19 52,156人)	目標値 (H23)	60,000人	氏名(連絡先)	溝淵 泰正 (088-823-9606)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWI1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	地域資源を活用した交流・体験型 ・計画策定経過打合せと実行支援チームメンバー選定 ・事業主体メンバー選定(検討ワーキングレベル)	・支援チームメンバーは「24.JRバス越知駅・・・」と同じ ・チームメンバーの役割の共有(事業主体メンバーのサポートなど) ・JR越知駅跡地活用実行委員会(運営委員会)の情報部会、観光・イベント部会メンバーが中心	4月27日(越知町役場)越知駅検討経過等の打ち合わせ及び支援チームメンバー選定 →JR越知駅跡地活用と密接な関係があるテーマであるため、同じ支援チームメンバーとした				
5月	・第1回JR越知駅跡地活用実行委員会(立上げ式)全体会の後、各部会ごとに打合せ	・実行委員会の際に上記部会メンバー中心に「越知町観光推進ワーキング」をつくって話し合うことを説明					
6月	・第1回越知町観光推進ワーキング	・今後の検討事項の説明 観光協会基本方針の策定 ・地域資源の洗い出し 観光資源(名所、自然、歴史など)、食材(素材及び加工品)、人材(団体、地区、個人)、恒例イベント(年間イベントスケジュール、イベント開催マップ)	6月4日(越知町観光協会) 観光推進WGの事前打ち合わせ [WGメンバー]観光協会:小松、西森、役場:武智、博物館:小松、地域支援企画員:小野田 6月17日26日岩川氏(岩や)の提案で、具体的な観光メニューとして仁淀川の川下りを検討(役場、支援員) 6月23日 観光協会理事会 越知駅整備と川下りについて説明・検討	・来年度の越知駅施設オープンに向け、観光協会としての方向性の整理や観光資源情報の整理、情報発信ツールの充実など、改めて検討する良いタイミングであり、観光協会会長の意向も踏まえながら、「基本方針」のような大枠から整理し、具体的な方法として、交流・体験型のメニュー(既存メニューの整理と新規メニュー及びメニューの組み合わせ)等を検討していく。 ・第1回ワーキングは日程調整と十分な準備ができず延期。			
7月			7月8日 川下り体験打ち合わせ(川漁師 岡本さん他関係者) 7月13日 川下り体験(町長以下10名、船頭4名)及び実現に向けた検討会	・屋形船や川舟、カヌーなどによる仁淀川の川下りを、体験型観光メニューとするために、実際の体験と検討を行った。今後、実現に向けて詳細部分を検討予定だが、全体スケジュールは未定。			
8月	・第2回越知町観光推進ワーキング	・地域資源の洗い出し(第1回の続き) 企画・プロモーション能力強化(観光客誘致力)や観光ガイドの育成などについて 地域資源をみがく(地域資源の客観的評価) 越知町観光の強みと弱みの整理(地域資源の洗い出しシートにより)	8月17日 第1回観光推進ワーキング ・越知町実行委員会の内容及び施設整備に向けた進捗状況の情報共有 ・まちの駅を核にした観光の推進についての検討 ・地域観光資源の洗い出し作業	・まず最初に地域観光資源の洗い出し作業や強み弱みの整理を行っていくが、具体的な観光推進の方針づくりは越知町の整備・実行委員会の検討状況を見ながら、観光情報発信拠点としての越知駅を核とした検討を行っていく必要がある。			
9月	・第3回越知町観光推進ワーキング	・課題の整理(ハード、ソフト分類) 強みを最大限に活かす、弱みを克服する方法 方法の具体化(旅行業法登録、宿泊施設など)	・第2回越知町観光推進ワーキング(予定)	・越知駅を核とした観光推進の方向性について ・地域資源の洗い出し結果の確認・共有 ・地域資源をみがく(地域資源の客観的評価) ・越知町観光の強みと弱みの整理(地域資源の洗い出しシートにより) ・強みを最大限に活かす、弱みを克服する方法 ・課題の整理(ハード、ソフト分類)			

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月							
11月		・第4回越知町観光推進ワーキング	・素材を活かした名物づくり 主体となる加工グループ等の掘り起こし・リスト化 加工施設の確保				
12月		・第5回越知町観光推進ワーキング	・観光情報の発信について ・基本方針の完成				
1月		・第6回越知町観光推進ワーキング	・越知駅施設オープンに向けての準備 特に観光情報提供の準備				
2月		・第7回越知町観光推進ワーキング	・第6回の続き				
3月		・越知町観光推進協議会立ち上げ ・施設プレオープン	・平成22年度の取り組みについて 基本方針に沿って 交流・体験観光メニューづくりなど				

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	現時点(6月9日現在)では、事前打ち合わせまでだが、越知駅施設オープン前までの年間の取り組みとして「越知町観光協会基本方針づくり」と「越知町の地域観光資源の情報整理」という方向性の共有はできている。	I 「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II 「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	上半期は、地域観光資源の洗い出しや強み弱みの整理などの基本情報整理を行い、具体的な観光推進の方針づくりは越知駅の整備・実行委員会の検討状況に合わせて進めていく。観光情報発信拠点としての越知駅を核とした観光推進の方針を全体プランとして検討・整理していく必要がある。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			

地域	仁淀川<日高村>	項目	35. 国宝と体験型観光による人口の増と地域の活性化				実行支援チーム長	
事業概要	日高村において、小村神社の国宝(大刀)の有効活用や、恵まれた自然環境を活かした体験型観光により、地域での交流人口を拡大し、地域の活性化につなげる。				事業主体	-未定		
主な内容	◆交流人口の拡大のための条件整備	地域AP掲載ページ	118	指標	公共関連宿泊施設での宿泊者数(H19 52,156人)	目標値(H23)	60,000人	
所属	観光政策課							
氏名(連絡先)	清洲 泰正 (088-823-9606)							

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIthの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	・庁内検討会 今年度の事業の方向性について		日高村役場内プロジェクトチーム立ち上げ JR四国と打ち合わせ等情報収集		日高村の総合的な観光振興をアドバイザーを導入して検討していくための準備ができた。役場内のプロジェクト会議も立ち上がり、第3回では、具体的に地域の代表も導入した委員会のメンバーも検討する予定。	日高村の総合的な観光振興をアドバイザーを導入して検討していくための準備ができた。役場内のプロジェクト会議も立ち上がり、第3回では、具体的に地域の代表も導入した委員会のメンバーも検討する予定。	日高村の総合的な観光振興をアドバイザーを導入して検討していくための準備ができた。役場内のプロジェクト会議も立ち上がり、第3回では、具体的に地域の代表も導入した委員会のメンバーも検討する予定。
5月	・庁内検討会 事業の具体的な進め方等	・これまで観光ルートを設定したこともなく、ノウハウもない。→アドバイザーの活用を検討	県観光政策課、高知女子大情報収集 能津地区空家視察 第2回 役場内プロジェクト会議 高知女子大打ち合わせ(アドバイザー)				
6月	・庁内検討会 検討内容及び検討メンバーの決定等	・継続性のあるメニューとするため、地元の方にも検討メンバーに入っていた形とする。	JR四国と打ち合わせ(駅から観光タク)				
7月			佐川町、越知町、牧野植物園と打ち合わせ (牧野博士生誕150周年イベントに向けた連携) 第3回 役場内プロジェクト会議				
8月	・第1回日高村観光推進ワーキング 地域資源の洗い出し、整理 観光資源(名所、自然、歴史など)、食材(素材及び加工品)、人材(団体、地区、個人)、恒例イベント(年間イベントスケジュール、イベント開催マップ)	・地域資源の洗い出しの方法等	アドバイザー派遣制度による専門家の派遣を申請	事業の具体的な進め方などアドバイザー等との協議に時間を要し、多少の遅れが生じた。今後は、アドバイザー制度による専門家派遣により、地域住民も交えながら観光資源の洗い出しを行う等、具体的な作業に入っていく予定。			
9月			第4回 役場内プロジェクト会議(予定)				

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SW1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		・第2回日高村観光推進ワーキング 地域資源の洗い出し(第1回の続き)					
11月							
12月		・第3回日高村観光推進ワーキング 地域資源の取りまとめ 観光ルート案の作成					
1月							
2月		・第4回日高村観光推進ワーキング 今年度の取りまとめ及び次年度以降の取組について					
3月							

特記事項	I 進捗(達成)度 ※	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針 ※	※特記事項の記載方法
第1四半期	○	役場内のプロジェクトチームも立ち上がり、地域内の資源を洗い出し検討していく体制ができた。 産業振興アドバイザー等の導入を図りながら、引き続き、実施計画に基づき実行していく。	I 「進捗度(達成度)」 「実施計画を超えて進捗した(達成できた)」 → ◎ 「実施計画どおり進捗した(達成できた)」 → ○ 「実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)」 → △ II 「進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」 第2四半期については上半期、第4半期については1年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること
第2四半期(上半期)	○	時間を要したが、アドバイザー等と事業の進め方などについての検討が進んだ。 今後は、アドバイザー制度による専門家の派遣を受け、観光資源の洗い出しなど具体的な作業に入っていく。	
第3四半期			
第4四半期(年間)			